



[www.hakodate-otani.ac.jp](http://www.hakodate-otani.ac.jp)



# HAKODATE OTANI COLLEGE

講義概要 2017 こども学科 1年

# こども学科

## <教育目的>

保育者として必要な基礎知識、技能を学ぶと同時に、職業人としての人格向上を目指し、すべての人に対してあたたかな心と優しさを持ち、ともに育ちあうことを大切にする人間性豊かな保育者・支援者の育成を目的とする。

## <教育目標>

1. [多様な専門性を身につけた保育者の養成]  
社会や地域、時代のニーズにあった知識・技術を習得するための教育を実施する。
2. [人を育てる人・支援する人として社会性を持った保育者の養成]  
他と協調できる良好な人間関係の構築を目指したコミュニケーション能力の育成を目指すと同時に、社会人としての人間形成に努める。
3. [心豊かに表現し主体的で行動力のある保育者の養成]  
様々な活動体験・表現活動を通して、多様な価値観や豊富な生活力を育む。

## <学習成果>

- ・ 保育の内容・方法を理解し、子どもの実態に応じた保育方法を探究できる。
- ・ 子どもの理解に基づいてコミュニケーションをとることができ、主体的行動がとれる。
- ・ 豊かな表現力を持って、子どもの理解と支援ができる。
- ・ 自己の保育者としての資質を客観視でき、より良い自己形成のための努力ができる。

## [講義概要]

### 授 業

- (1) 授業はすべて教育課程に基づいて実施する。
- (2) 授業は集中講義及び休業日に実施する科目を除き、すべて時間割に従って実施する。
- (3) 時間割は教育課程に基づき、学期毎に編成する。
- (4) 時間割や教室の変更は教務の承認を得なければならない。
- (5) 各講義の開講は次のとおりとする。

2017年 こども学科カリキュラム（平成29年度入学者）

分類	科目	授業区分	単位	授業形態	時間	1年		2年		卒業要件	幼児	保育士	主事(任) 社会福祉士
						前期	後期	前期	後期				
教養教育科目	人間学Ⅰ	講義	2	合同	2	2				◎		◎	
	人間学Ⅱ	講義	2	合同	2		2			△			
	こころの科学	講義	2	合同	2	2				△		◎	
	日本国憲法	講義	2	合同	2		2			△	◎		
	障害者福祉論	講義	2	合同	2				2	△			◎
	現代地域学論	講義	2	集中	2					△			
	情報処理演習	演習	2	分離	4	2	2			△	◎		
	英語	演習	2	分離	4			2	2	△		◎	
	英会話	演習	2	分離	4	2	2			△	◎		
	健康科学論	講義	1	合同	1	1				△	◎	◎	
	健康とスポーツ	演習	1	合同	3	3				△	◎	◎	
専門教育科目	幼児音楽Ⅰ	演習	2	分離	4	2	2			◎	◎	◎	
	器楽Ⅰ	演習	2	分離	4			2	2	◎		◎	
	声楽Ⅰ	演習	2	分離	4	2	2			◎		◎	
	幼児美術Ⅰ	演習	2	分離	4	2	2			◎	◎	◎	
	幼児体育Ⅰ	演習	2	分離	4			2	2	◎	◎	◎	
	基礎国語	講義	2	合同	2	2				○	◎	○	
	児童文化Ⅰ	講義	2	合同	2			2		◎		◎	
	社会福祉	講義	2	分離	2	2				○		◎	◎
	相談援助	演習	1	分離	2		2			○		◎	
	児童家庭福祉	講義	2	合同	2		2			◎		◎	
	保育原理	講義	2	合同	2	2				◎		◎	◎
	保育原理Ⅱ	講義	2	合同	2				2	○		○	
	社会的養護	講義	2	合同	2	2				○		◎	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	分離	4		2			○		◎	
	保育実習指導Ⅱ	演習	1	分離	2			2		○		◎	
	保育実習指導Ⅲ	演習	1	分離	2			2		○		◎	
	保育実習Ⅰ	実習	4	集中	12		6	6		○		◎	
	保育実習Ⅱ	実習	2	集中	6			6		○		◎	
	保育実習Ⅲ	実習	2	集中	6			6		○		◎	
	子どもの保健ⅠA	講義	2	合同	2			2		◎		◎	
	子どもの保健ⅠB	講義	2	合同	2				2	○		◎	
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	分離	2		2			◎		◎	
	子どもの食と栄養	演習	2	分離	4			2	2	○		◎	
	乳児保育Ⅰ	演習	2	分離	4	2	2			○		◎	
	保育の心理学Ⅰ	講義	2	合同	2			2		○		◎	
	家庭支援論	講義	2	合同	2				2	○		◎	
	保育相談支援	演習	1	分離	2			2		○		◎	
	障がい児保育	演習	2	分離	4			2	2	○		◎	
社会的養護内容	演習	1	分離	2			2		○		◎		
教育原理	講義	2	合同	2	2				◎	◎	◎	◎	
保育者・教師論	講義	2	合同	2				2	○	◎	◎		

分類	科 目	授業 区分	単 位	授業 形態	時 間	1 年		2 年		卒業 要件	幼 免	保 育 士
						前期	後期	前期	後期			
専門系教育科目	相 談 心 理 学	講義	2	合同	2		2			○	◎	○
	保 育 内 容 総 論	演習	1	分離	2		2			○		◎
	教 育 心 理 学	演習	1	分離	2	2				◎	◎	◎
	教 育 財 政 学	講義	1	合同	1			1		○	◎	
	指 導 計 画 論	講義	2	合同	2		2			○	◎	◎
	保 育 内 容 研 究 I ・ 人	演習	2	分離	4			2	2	◎	◎	◎
	保 育 内 容 研 究 II ・ 言	演習	2	分離	4	2	2			◎	◎	◎
	保 育 内 容 研 究 III ・ 環	演習	2	分離	4	2	2			◎	◎	◎
	保 育 内 容 研 究 IV ・ 健	演習	2	分離	4			2	2	◎	◎	◎
	保 育 内 容 研 究 V ・ 表	演習	2	分離	4			2	2	◎	◎	
	教 育 方 法 論	講義	2	合同	2		2			○	◎	
	教 育 実 習 指 導	演習	1	合同	2	1		1		○	◎	
	教 育 実 習	演習	4	集中	12	3			9	○	◎	
	保 育 ・ 教 職 実 践 演 習	演習	2	分離	4				4	○	◎	◎
	卒 業 研 究	演習	1	合同	2				2	◎		
	楽 器 II	演習	1	分離	2	1	1			○		
楽 器 III	演習	1	分離	2			1	1	○			

◎印は卒業及び、幼免・保育士の必修科目です。

卒業するためには、その他に△印の中から12単位以上、○印の中から19単位以上履修すること。保育士の資格を取得する学生は、○印の中から選択必修。

#### ※実習履修について

—教育実習（幼稚園本実習）—

教育実習（本実習）は、実習前において開講している学則必修科目および幼稚園経論二種免許状取得科目に関して未修得がある場合、または修得見込みが立たない場合は教育実習（本実習）を履修することはできない。

—保育実習（保育園・施設）—

実習前において開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修することはできない。

#### こども学科コース選択科目

分類	科 目	授業 区分	単 位	授業 形態	時 間	1 年		2 年		備 考
						前期	後期	前期	後期	
幼児教育	こどもの造形と遊び	演習	1	幼教	2			2		
	こどもの音楽と遊び	演習	1	幼教	2			2		
	こどもの健康と遊び	演習	1	幼教	2				2	
保育福祉	社会福祉法制	講義	2	保福	2			2		社会福祉主事（任）
	ボランティア活動論	講義	2	保福	2				2	
	福祉住環境コーディネーターI	演習	1	保福	2			2		
保育心理	教育カウンセリング	演習	1	保心	2				2	
	セラピー概論	講義	2	保心	2			2		
	保育心理演習	演習	1	保心	2			2		

#### 自由選択科目

分類	科 目	授業 区分	単 位	授業 形態	時 間	1 年		2 年		備 考
	幼 児 総 合 研 究	演習	2	合同	4	2			2	
	国 際 保 育 理 解	演習	1	合同	2		集中			海外研修
	ウインタースポーツ	演習	1	合同	2				集中	

※自由選択科目の単位は卒業単位数には算入しない。

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
人間学Ⅰ	2	1	前期	福島 重
授業のねらいと到達目標	人間学とは、「自分と向き合う」学問である。人間の根源的苦しみや、現代社会が抱える問題を深く考えることは、そこに生活する「自分自身」をみていくことに繋がっていく。この授業では、その「自分とは何か」を探るための道標として仏教を用い、それをもとに洞察力・考察力を養う。			
授業の方法	授業は、主に配布プリントをもとに進める。また不定期で小テストを行い、理解力を確認する。			
事前・事後学習	事後学習として複数回、課題を出す予定。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	ガイダンス	9	人間にとって恋愛とは？	
2	「人間学」とは何なのか？	10	自我と利他	
3	仏教では「死」をどう受け止めるのか？	11	人間と災害	
4	仏教では「病」をどう受け止めるのか？	12	仏教と科学	
5	仏教では「老」をどう受け止めるのか？	13	仏教と社会 ①ジェンダーをどう捉えるか？	
6	仏教では「生」をどう捉えるのか？	14	仏教と社会 ②差別について	
7	人間は弱い生き物なのか？	15	人間の真の幸福とは	
8	仏教における「欲」と社会における「欲」			
教科書・参考文献	特になし			
成績評価の方法及び基準	小テスト (60%) ……授業内で不定期に小テストを行う (15点×4) レポート等の課題評価 (40%)			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
人間学Ⅱ	2	1	後期	福島 豪
授業のねらいと到達目標	「人間」として生きていくということは一体どういうことなのか。本講義では、環境、社会、文化等を再度見つめなおしつつ、人間とは何か、生きるとは何かという根本的問いを再考する。			
授業の方法	講義毎にテーマを提示し、その時間内で考察し意見を発表し合うことで、考察の精緻化を図る。			
事前・事後学習	事後、講義で提示されたテーマについての自分の考えをまとめなおす必要がある。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	なぜ勉強するのか	
2	ヒトと動物の相違点	10	教育における諸問題	
3	人権について～差別問題から～	11	戦争について	
4	真理観について	12	なぜ人は「在る」のか	
5	個性の成り立ち	13	民主主義について	
6	自由とはなにか	14	生きる力とは	
7	常識とはなにか	15	講義総括	
8	社会における諸問題			
教科書・参考文献	なし			
成績評価の方法及び基準	授業内提出物 (50%)、定期試験 (50%)			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
こころの科学	2	1	前期	阿部 千春
授業のねらいと到達目標	本授業では、人の心のしくみを科学的に理解しようとする態度を養い、自分や子どもの理解、保育・幼児教育にも関連づけて考えていくことを目的とします。人の心のしくみについて基本的な知識を習得することをめざします。			
授業の方法	講義資料を用い、講義形式で行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。			
事前・事後学習	授業後は、講義資料を読んで復習し、学習した内容の要点をノートにまとめます。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション		9	集団の心理学とリーダーシップ理論
2	科学としての心理学		10	感覚と知覚のメカニズム
3	心理療法とカウンセリング		11	感情と情動
4	生涯発達心理学① 乳幼児期～児童期		12	動機づけの心理学
5	生涯発達心理学② 思春期～老年期		13	学習理論
6	パーソナリティ心理学		14	知能検査法
7	対人関係の心理学①		15	講義総括
8	対人関係の心理学②			
教科書・参考文献	教科書：なし・資料配付、参考文献：「ワークショップ 大学生生活の心理学」ナカニシヤ出版			
成績評価の方法及び基準	授業内試験（80%）、感想カード（20%）によって総合的に評価します。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
日本国憲法	2	1	後期	山形 周文
授業のねらいと到達目標	憲法の実在意義は主権者として是非とも理解してほしい。人権とは・権力とは・・・対立する考え・利益を衡量してどのような結論を導けば良いかについて考えていただきます。			
授業の方法	講義形式。論点によっては学生も議論に加わる。			
事前・事後学習	教科書・参考書などで予習する必要はない。新聞などで日々生起している事件・争訟には興味を持ってほしい。争う当事者双方に言い分があることを理解していただきたい。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション		9	罪刑法定主義
2	憲法の実在意義		10	二重の基準
3	憲法用語の基礎知識		11	選挙の原則
4	憲法用語の基礎知識		12	夫婦別姓制度
5	憲法用語の基礎知識		13	裁判員制度
6	憲法用語の基礎知識		14	判例演習
7	教育を受ける権利		15	判例演習
8	新しい人権			
教科書・参考文献	特になし			
成績評価の方法及び基準	論文試験を100%とする。必修問題と選択問題を総合的に判断して、60%以上が合格。			

科目名		単 位	年次	開講期	担当教員氏名
現代地域学論		2	1	集中	こども学科教員
授業のねらいと到達目標	函館8高等教育機関による単位互換科目です。各分野の専門家による講義・ワークショップ及び施設見学を行う集中講義です。				
授業の方法	募集時期に発表				
事前・事後学習及び参考図書	募集時期に発表				
履修条件					
授 業 計 画					
1	今年度分は現時点では未定			9	
2				10	
3				11	
4				12	
5				13	
6				14	
7				15	
8					
教科書	募集時期に発表				
成績評価の方法及び基準	募集時期に発表				

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
情報処理演習	2	1	通年	笹谷 かおり・丹 満枝
授業のねらいと到達目標	①パソコンの基本操作および Office ソフトの操作スキルを習得し、保育者としてコンピュータを活用できる基礎的な力を身に付ける。 ②インターネットを安全に活用し、必要な情報を収集するとともに、情報を発信する技術の習得を目指す。			
授業の方法	教科書とプリントを使い、主に演習形式で授業を実施します。 授業内テストの合格を単位認定の必須条件とします。			
事前・事後学習	授業内に習得できなかった部分については、次回までに復習してください。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	ガイダンス・Windows10 の基本操作①	16	Excel (1) データ入力とセルの書式設定、簡単な関数	
2	Windows10 の基本操作②	17	Excel (2) カレンダーの作成① (ページ設定、罫線)	
3	インターネットの活用①	18	Excel (3) カレンダーの作成② (シートの操作)	
4	インターネットの活用②、電子メールの活用①	19	Excel (4) 四則演算、グラフの作成	
5	電子メールの活用②、情報モラルについて	20	Excel (5) 園児台帳の作成① (ふりがな、入力規則)	
6	Word (1) おしらせ文書の作成①	21	Excel (6) 園児台帳の作成② (データベース機能)	
7	Word (2) おしらせ文書の作成②と文書作成マナー	22	Excel (7) 園児台帳の作成③ (便利な関数)	
8	Word (3) 献立表の作成 (表・イラストの活用)	23	Excel 授業内テスト	
9	Word (4) はがきの作成 (ページ設定、画像の挿入)	24	PowerPoint (1) プレースホルダの活用と書式設定	
10	Word (5) 図形の描画 (地図を描く)	25	PowerPoint (2) 表の作成、スライドレイアウトの変更	
11	Word (6) 高度な文書レイアウト (改ページの挿入)	26	PowerPoint (3) 図形の描画 (地図を描く)	
12	Word (7) クラスだより・園だよりの作成①	27	PowerPoint (4) 画像・ワードアート・SmartArt 挿入	
13	Word (8) クラスだより・園だよりの作成②	28	PowerPoint (5) 画面切り替え効果とスライドショー	
14	Word (9) クラスだより・園だよりの作成③	29	PowerPoint (6) アニメーション効果、リハーサル	
15	Word 授業内テスト	30	PowerPoint 授業内テスト	
教科書・参考文献				
成績評価の方法及び基準	授業内テスト (90%)、提出された課題評価 (10%) 授業内テスト 3 回 (Word・Excel・PowerPoint) を受験し、それぞれに合格することが必須条			



科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
英 会 話	2	1	通年	William George Bowman
授業のねらいと到達目標	英語で話そう！しかし、文法は勉強しなくてかまわない。私と一緒に勉強すると役立つフレーズを覚えられて、すぐにテストの日が楽しみになるよ。英語で思ったこと話せるようになる秘訣は暗記ですから、それも期待してください。（テストの日は欠席しないでよ。）			
授業の方法	実用的なフレーズを勉強、暗記。 自分のことを伝える文も暗記。			
事前・事後学習	毎回、教科書とノートを予習し、持ってくること。 復習は必ず行うこと。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション 仕事や勉強する私	16	怒る私/いらつく私/いさめる私	
2	仕事や勉強する私	17	驚く私/怖がる私/心配する私	
3	テスト	18	テスト	
4	遊ぶ私	19	困っている私/情けない私/低姿勢の私	
5	礼儀やあいさつを欠かさない私	20	知りたがり屋の私/相槌を打つ私/受け答えをする私	
6	テスト	21	テスト	
7	友達思いの私/心優しい私	22	ベラベラ more フレーズー1	
8	楽天家の私/うれしい私	23	ベラベラ more フレーズー2	
9	テスト	24	テスト	
10	恋する私/恋を失う私	25	ベラベラ more フレーズー3	
11	冷静な私/寸評する私	26	ベラベラ more フレーズー4	
12	テスト	27	テスト	
13	忠告する私/励ます私//提案する私/お願いする私	28	ベラベラ more フレーズー5/6	
14	テスト	29	テスト	
15	復習	30	全講義の復習と重要ポイントの確認	
教科書	未定			
成績評価の方法及び基準	授業内テスト 80% (8×テスト 10 回) 暗記発表テスト 21% (テスト 7 回分×3%)			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
健康科学論	1	1	前期	中川 希望
授業のねらいと到達目標	本講義では、健康の維持増進を図るために健康の概念や健康に影響を与える生活習慣、環境要因などを学ぶ。そして、自分自身の健康を見直し、生涯にわたり健康に過ごすための力を身につける。			
授業の方法	毎時間資料を配布し、講義形式で行う。テストを受験することが単位認定の必須条件。			
事前・事後学習	テストまでの講義内容の復習が相当時間必要となる。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・体組成	9	休養と健康	
2	健康の概念	10	メンタルヘルス	
3	現代社会と健康	11	アルコールと薬物と喫煙	
4	生活習慣病	12	性感染症の実態	
5	ライフステージと健康管理	13	する・みる・ささえるスポーツ	
6	運動と健康	14	ライフサイクル	
7	トレーニング理論と運動処方	15	運動プログラム・講義総括	
8	栄養と健康			
教科書・参考文献	健康づくりのための運動の科学(化学同人)、健康増進科学概論—運動・栄養・休養—(東京教学社)			
成績評価の方法及び基準	筆記試験のみ			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
健康とスポーツ	1	1	前期	中川 希望
授業のねらいと到達目標	スポーツの実践を通し、スポーツの理解を深め、心身共に健康で活動的な身体づくりを行う。そして、生涯にわたり積極的に運動に関わる資質を高める。			
授業の方法	実技を行う。2回のレポート提出および授業内テストの受験が単位認定の必須条件。			
事前・事後学習	各種目におけるルール理解のための予習が必要。また、テストのための復習が相当時間必要となる。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・体力テスト①	9	バドミントン・卓球②	
2	体力テスト②	10	バドミントン・卓球③	
3	バスケットボール①	11	ソフトバレーボール(レポート提出)	
4	バスケットボール②	12	バレーボール①	
5	バスケットボール③【テスト】	13	バレーボール②	
6	サッカー①(レポート提出)	14	バレーボール③【テスト】	
7	サッカー②	15	講義総括	
8	バドミントン・卓球①			
教科書・参考文献				
成績評価の方法及び基準	授業内テスト(60%) 授業内テスト2回(30点×2)の受験を必須とする。 提出されたレポート等の課題評価(40%)			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
幼児音楽 I	2	1	通年	江端 深雪
授業のねらいと到達目標	幼稚園教諭、保育士として必要な音楽基礎能力の養成を目的とし、保育現場で必要な音楽力を習得する。連弾やアンサンブル、ミュージックベルなど、音楽の楽しさを体験することもねらいのひとつであり、表現力を養い子どもの感性を育むことのできる創造性豊かな保育者を目指す。			
授業の方法	教科書とプリントを用い、音楽理論とMLや実技を含む演習形式で授業を実施する。習熟度確認のための小テストや課題、2回実施されるピアノ小テストにより単位認定を行う。			
事前・事後学習	授業で提示された課題は、各自ピアノ練習室等で反復練習し演奏技術向上に努めてほしい。ピアノの上達は個人の練習によるところが大きいので、事前事後学習は非常に大切である。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション 授業概要の説明	16	移調の理解	
2	五線と音の名前	17	伴奏譜の作成	
3	音符と休符 拍子	18	移調 小テスト	
4	弾くこと 楽譜を読むこと	19	ピアノでアンサンブルを楽しむ①	
5	＃・♭と和音	20	ピアノでアンサンブルを楽しむ②	
6	ハ長調の理解（伴奏法）	21	ミュージックベルを楽しむ①	
7	ハ長調例題曲の学習	22	ミュージックベルを楽しむ②	
8	実習課題曲の学習	23	グループ発表	
9	ヘ長調の理解（伴奏法）	24	手作り楽器の作成①	
10	ヘ長調例題曲の学習	25	手作り楽器の作成②	
11	3人でアンサンブルを楽しむ	26	手作り楽器によるアンサンブル	
12	弾き歌い 小テスト	27	ボディパーカッション	
13	ト長調の理解（伴奏法）	28	音楽ゲーム	
14	ト長調例題曲の学習	29	ピアノ 小テスト	
15	ピアノ 小テスト	30	まとめ	
教科書・参考文献	楽譜が読める・弾けるステップ20（音楽之友社）			
成績評価の方法及び基準	演奏課題曲2曲・弾き歌い2曲によるピアノ小テスト合格が必須条件（60%） 授業内での課題・その他の小テスト（40%）			

科	目	名	単	位	年次	開講期	担当教員氏名
		声 楽 I		2	1	通年	鈴木 比都美
授業のねらいと到達目標	本講義は、声楽（歌い方）の理解を深め、教職への適正・意欲を高める事を目的とする。						
授業の方法	教科書を用い実技形式で行う。						
事前・事後学習	教科書について毎時予習が必要。						
履修条件							
授 業 計 画							
1	オリエンテーション		16	9月のうたより（まつぼっくり・ゆうやけこやけ） 10月のうたより（どんぐり）			
2	4月のうたより （おはようのうた・チューリップおかえりのうた）		17	10月のうたより （うんどうかい・もみじ・どんぐりころころ）			
3	発声に関する理論 4月のうたより （あくしゅでこんにちは、ちょうちょ）		18	10月のうたより（こもりうた・ピクニック）大学歌			
4	4月のうたより（たんぽぽ・やまのワルツ） 花まつりのうた		19	10月のうたより（小さい秋みつけた・もみじ）大学歌			
5	5月のうたより（おべんとう・こいのぼり・おつめ をきりましょう）花まつりのうた		20	11月のうたより（しあわせならてをたたこう・ かもつれっしや・たき火）大学歌			
6	5月のうたより（せっけん・おかあさん・ かわいいかくれんぼ）花まつりのうた		21	11月のうたより（まっかな秋・ケンパであそぼう）			
7	5月のうたより（せいくらべ・ぞうさん） 6月のうたより（はをみがきましょう）		22	12月のうたより （雪のこぼろず・やきいもグーチャーパー・もちつき）			
8	6月のうたより （おうま・とけいのうた・かたつむり）		23	12月のうたより（あわてんぼうのサンタクロース・ こぶたぬきつねこ・おもちゃのチャチャチャ）			
9	6月のうたより（あめ・あまだれポッタン）		24	報恩講のうた、12月のうた（ジングルベル） 1月のうたより（雪）			
10	6月のうたより （お父さん大好き・あめふりくまのこ）		25	報恩講のうた 1月のうたより（お正月、おへそ、雪のペンキ屋さん）			
11	6月のうたより（大きな古時計・時計のうた）		26	報恩講のうた、1月のうたより（やぎさんゆうびん） 2月のうたより（豆まき・あられ）			
12	7月のうたより（お星さま・たなばたさま・トマト）		27	イタリア歌曲より（ニーナ） 2月のうたより（春です ね春ですよ・犬のおまわりさん）			
13	7月のうたより（おつかいありさん・アイアイ） 8月のうたより（うみ）		28	イタリア歌曲より（ニーナ） 2月のうたより（どこかで春が）			
14	8月のうたより （はなび・ともだちさんか・手のひらを太陽に）		29	イタリア歌曲より（ニーナ） 3月のうたより（ひなまつり・すうじのうた）			
15	9月のうたより（山の音楽家・七つの子・大根ぬき）		30	イタリア歌曲より（ニーナ） 3月のうたより （思い出のアルバム・1年生になったら）			
教科書・参考文献	たのしく遊べるこどものうた						
成績評価の方法 及び基準	定期試験（100%）、60%以上合格						

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
幼児美術 I	2	1	通年	神林 真里
授業のねらいと到達目標	本授業では、子ども達がのびのびと自己を表現し工夫ある生活と感性豊かに成長できるよう、表現活動へのよき援助者、誘導者、理解者としての知識・技術を習得する。保育士を目指す学生自身が表現者であり、実技体験を通し自らの感性を磨き、造形表現の基礎を体得する。			
授業の方法	教科書やプリントなどを用いながらの講義と、子どもたちの遊びに実践できる絵画や制作など実技体験を行なう。 作品提出と筆記試験合格が、単位認定の必須条件。			
事前・事後学習	課題作品については、創意工夫のために継続的制作時間が必要。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	16	壁面製作	
2	人間と造形活動・造形遊びの意義	17	壁面製作	
3	乳児造形表現の発達と特徴	18	壁面製作	
4	幼児造形表現の発達と特徴	19	名札製作	
5	幼児の遊びと造形活動	20	名札製作	
6	材料との関わり	21	絵本の歴史	
7	技法遊び ① ドリッピング	22	絵本の意義と種類	
8	技法遊び ② デカルコマニー	23	絵本と造形遊び	
9	技法遊び ③ スタンピング	24	絵本製作	
10	技法遊び ④ フロッタージュ	25	絵本製作	
11	技法遊び ⑤ コラージュ	26	絵本製作	
12	形と構成	27	絵本制作	
13	色彩	28	絵本製作	
14	色彩	29	手作りおもちゃ	
15	デザイン	30	手作りおもちゃ	
教科書・参考文献	保育をひらく造形表現（萌文書林） 「造形表現」理論・実践編 （三晃書房） 他			
成績評価の方法及び基準	提出作品(50%)、筆記試験(50%)を総合して評価する。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
基礎国語	2	1	前期	西川 司
授業のねらいと到達目標	本講義では、国語の基礎の「書く」「読む」「聞く」「話す」を学ぶ共に、コミュニケーション能力を身につけることを主題とする授業を行う。			
授業の方法	講義中心。グループワーク。討論形式。ビデオ鑑賞。絵本・童話の読み聞かせを行う。			
事前・事後学習	事後にレポートにまとめ、自分がどこまで理解したかを確認する作業を繰り返すことが大切。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	対話力を身につける(2)	
2	文章の書き方(1)	10	絵本・童話の読み聞かせ(1)	
3	文章の書き方(2)	11	絵本・童話の読み聞かせ(2)	
4	「起承転結」「序・破・急」を身につける(1)	12	創作童話に挑戦	
5	「起承転結」「序・破・急」を身につける(2)	13	入社試験に必要な小論文を書く	
6	文章による自己アピールの仕方	14	入社を想定した模擬面接の実践	
7	会話による自己アピールの仕方	15	講義総括	
8	対話力を身につける(1)			
教科書・参考文献	向日葵のかっちゃん			
成績評価の方法及び基準	授業内の課題、レポート等を総合的に評価する。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
社会福祉	2	1	前期	渡谷 能孝
授業のねらいと到達目標	社会福祉という多義的な概念は、日本国民全体に関わる大切なものであります。本講義では、社会福祉の基本的知識はもちろん、社会福祉的視点について幅広く理解することをねらいとし、現代社会における福祉課題を考えます。			
授業の方法	教科書やスライド等を用いた講義形式で授業を行います。単位取得には授業への出席と筆記試験に合格することが必要です。			
事前・事後学習	教科書を読んで予習が必要。テストについては、それまでの講義の復習が必要となります。新聞等で社会福祉事情にふれておくとよい。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・社会福祉	9	子どもと家族の福祉①	
2	保育と社会福祉	10	子どもと家族の福祉②	
3	社会福祉の流れ	11	障害者福祉	
4	社会福祉の意味と考え方	12	高齢者福祉	
5	社会福祉の実施体制と財源専門性と職業倫理	13	地域福祉	
6	暮らしを支える社会保障制度（年金保険）	14	社会福祉と保育士のこれから	
7	暮らしを支える社会保障制度（医療保険）	15	講義の総括	
8	暮らしを支える社会保障制度（生活保護）			
教科書・参考文献	教科書 保育士をめざす人の社会福祉	みらい	参考文献	社会福祉の動向 2017
成績評価の方法及び基準	筆記試験60点以上に単位認定			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
相談援助	1	1	後期	渡谷 能孝
授業のねらいと到達目標	保育における相談援助のかかわりや役割は、保育士の特性や専門性として期待されています。本講義では、学生自身が自分の価値観に気付き、保育者としてのコミュニケーション力を習得し、保育相談者として自覚することをねらいとします。また、事例展開からソーシャルワーク機能を理解します。			
授業の方法	スライドを用いた講義と演習。単位取得には授業への出席と筆記試験に合格することが必要です。			
事前・事後学習	新聞等で社会事情を理化しておくことよい。配布されたワークシートを自己学習すること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	基本的応答技法②	
2	保育と相談援助	10	相談援助の過程（アセスメント）	
3	相談援助の役割・目的	11	相談援助の過程（ジェノグラム）	
4	相談援助者としての自己覚知	12	相談援助の過程（エコマップ）	
5	相談援助者としてのコミュニケーション	13	相談援助の過程（プランニング）	
6	相談援助者としての自己覚知	14	相談援助の過程（まとめ）	
7	相談援助の過程（インテーク）	15	相談援助者になるために	
8	基本的応答技法①			
教科書・参考文献	参考文献 保育士をめざす人のソーシャルワーク			
成績評価の方法及び基準	筆記試験（60点以上に単位認定）			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
児童家庭福祉	2	1	後期	小山 貴博
授業のねらいと到達目標	本講義では、児童とその家庭を取り巻く現状を背景に、児童家庭福祉の基本的な考え方や歴史を理解する。その上で、児童家庭福祉にかかわる各種の具体的な制度やサービスを理解する。			
授業の方法	教科書の内容に沿ったスライド資料およびワークシートを用いて、講義形式で行う。筆記試験の受験が単位認定の必須条件となる。			
事前・事後学習	事前に教科書を熟読し、予習した上で講義を受講すること。また、各回の受講後には、講義内容を復習し、必要に応じて、各種統計資料や関連法の原文等を参照すること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	児童虐待とDV	
2	児童とその家庭を取り巻く現状	10	社会的養護、ひとり親家庭への福祉	
3	子どもの権利保障	11	障害児福祉	
4	児童家庭福祉の歴史	12	情緒障害・非行児童への対応	
5	児童家庭福祉の法体系と行財政、実施機関	13	児童家庭福祉の専門職と連携	
6	子育て支援サービスと児童の健全育成	14	講義内容の振り返り①	
7	母子保健サービス	15	講義内容の振り返り②	
8	保育サービス			
教科書・参考文献	「学ぶ・わかる・みえる シリーズ保育と現代社会『保育と児童家庭福祉』」（みらい）			
成績評価の方法及び基準	① ワークシートへの記入状況(40%)と②筆記試験(60%)を総合して評価する。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育原理	2	1	前期	奥野 正義
授業のねらいと到達目標	保育とは何か、保育を取り巻く制度や環境、世界や日本の保育の歴史など、保育者になるための基本的な事項について理解を深めることが目的である。			
授業の方法	教科書や資料等を用い、講義形式で行う。授業内テストを受験することが単位認定の必須条件。			
事前・事後学習	事前に、次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んでおくこと。講義で学んだ事項について教科書、保育所保育指針、幼稚園教育要領等のどこに書いてあるか確認すること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション：保育とは	9	子育て支援と地域連携	
2	幼稚園とは	10	幼稚園の父：フレーベル	
3	保育所とは	11	世界の保育の歴史	
4	認定こども園とは（小テスト1回目）	12	日本の幼稚園の歴史	
5	幼稚園教育の基本：幼稚園教育要領	13	日本の保育所の歴史（小テスト3回目）	
6	保育所の基本：保育所保育指針	14	世界の保育	
7	子どもの発達の理解と保育	15	まとめ	
8	教育課程と指導計画（小テスト2回目）			
教科書・参考文献	「よくわかる保育原理（第4版）」森上史朗ほか編 参考図書 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説			
成績評価の方法及び基準	授業内試験(60%)。レポート(40%)。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
社会的養護	2	1	前期	小山 貴博
授業のねらいと到達目標	本講義では、社会的養護の求められる背景や歴史、理念を理解する。その上で、社会的養護の体系や実施現場、支援の実際を理解する。また、社会的養護で求められる保育士の専門性を理解する。			
授業の方法	教科書の内容に沿ったスライド資料およびワークシートを用いて、講義形式で行う。筆記試験の受験が単位認定の必須条件となる。			
事前・事後学習	事前に教科書を熟読し、予習した上で講義を受講すること。また、各回の受講後には、講義内容を復習し、必要に応じて、各種統計資料や関連法の原文等を参照すること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	家庭への支援	
2	社会的養護とは	10	関係機関との連携	
3	社会的養護の歴史	11	里親制度①	
4	社会的養護の基本的な考え方	12	里親制度②	
5	社会的養護の体系、施設養護①	13	施設の運営、保育士に必要な資質や倫理、専門性	
6	施設養護②	14	講義内容の振り返り①	
7	家庭養護・家庭的養護、施設養護の実際①	15	講義内容の振り返り②	
8	施設養護の実際②			
教科書・参考文献	「保育士をめざす人の社会的養護」(みらい)			
成績評価の方法及び基準	① ワークシートへの記入状況(40%)と②筆記試験(60%)を総合して評価する。			



科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育実習指導 I	2	1	後期	神林 真里
授業のねらいと到達目標	本授業では、保育士資格取得のために学んだ知識・技能を実践的に活かす実習が、より良い効果をあげるよう「保育実習 I」の意義目的を学び、具体的内容と方法を理解する。また実習生としての心構えを理解し、課題を明確にさせる。			
授業の方法	教科書使用の講義形式。また DVD など補助教材を使用しながら保育への理解を深める。課題提出や授業内確認テストの合格が、単位認定の必須条件。			
事前・事後学習	保育所保育指針を熟読すること。授業内確認テストについては、講義内容の復習に相当時間必要である。			
履修条件	保育実習を履修する学生が原則			
授 業 計 画				
1	オリエンテーション 保育実習 I の位置づけ	9	保育所保育指針の理解	
2	保育所とは	10	保育所保育指針の理解	
3	保育士とは	11	保育所保育指針の理解 (確認テスト)	
4	保育者に求められる資質	12	実習課題の設定	
5	保育ニーズ	13	実習日誌の書き方	
6	保育制度と特別保育事業	14	指導計画と指導案	
7	保育所の生活と一日の流れ	15	実習直前指導および面談	
8	保育所保育指針の理解			
教科書・参考文献	保育所保育指針 保育実習 (中央法規) 他			
成績評価の方法及び基準	授業内確認テスト (60%)、レポートおよび課題 (40%) を総合評価。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育実習指導 I	2	1	後期	阿部 千春
授業のねらいと到達目標	本授業では、保育実習の中の「社会福祉施設」実習について、その意義や位置づけを理解するとともに、実習に必要な基本的な知識、技術、態度等を習得します。既習の科目全体で学んだ理論と実習を関連づけて、自己の課題を明確にすることをめざします。			
授業の方法	教科書と講義資料を用いて講義形式で行います。課題の提出、授業内で行う確認テストの受験が単位認定の必須条件となります。			
事前・事後学習	社会福祉施設実習に関わる準備を行います。実習に備え、体調管理をしっかりと行います。			
履修条件	保育実習を履修する学生が原則			
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	学外施設見学	
2	社会福祉施設実習の目的と内容	10	施設実習事前学習①	
3	社会福祉施設の基本的理解	11	施設実習事前学習②	
4	児童養護系施設の理解①	12	実習課題の設定	
5	児童養護系施設の理解②	13	実習の計画と記録	
6	児童養護系施設の理解③	14	事前訪問オリエンテーション	
7	障害児(者)系施設の理解①	15	実習直前指導	
8	障害児(者)系施設の理解②			
教科書・参考文献	「福祉施設実習ハンドブック」(株)みらい、「保育実習ガイドライン(福祉施設実習編)」			
成績評価の方法及び基準	提出課題 (60%)、確認テスト (40%) によって総合的に評価します。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育実習 I (保育所)	2	1・2	通年	神林真里・小山貴博・中川希望
授業のねらいと到達目標	教科として学んだ知識・技術を基礎として保育所の生活に参加し、乳幼児への理解と保育所の機能やそこで働く保育士の職務について学ぶ。			
授業の方法	保育所において、12日間に所要時間90時間以上の実習を行なう。(必修) 実習日誌やレポート等の提出は、単位認定の必須条件。			
事前・事後学習	保育実習指導 I を受講し、実習に必要な知識、技術の習得と準備を行うこと。			
履修条件	実習前において開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修できない場合がある。			
授 業 計 画				
1	保育所保育実習		9	保育所保育実習
2	保育所保育実習		10	保育所保育実習
3	保育所保育実習		11	保育所保育実習
4	保育所保育実習		12	保育所保育実習
5	保育所保育実習		13	保育所保育実習
6	保育所保育実習		14	保育所保育実習
7	保育所保育実習		15	保育所保育実習
8	保育所保育実習			
教科書・参考文献	保育所保育指針 保育実習(中央法規) 他			
成績評価の方法及び基準	保育所からの評価・日誌・出勤状況・レポートなどの総合評価 (100%)			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育実習 I (施設)	2	1・2	通年	阿部千春・江端深雪・小山貴博
授業のねらいと到達目標	社会福祉施設の生活に参加することで、対象児(者)への理解を深め、施設の機能と保育士の職務の習得を目的とします。			
授業の方法	社会福祉施設にて12日間(90時間以上)の必修実習となります。実習日誌とレポートの提出は単位認定の必須条件となります。			
事前・事後学習	自分が行く実習施設について、事前に調べておき、必要な知識をつけておきます。			
履修条件	実習前において開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修できない場合がある。			
授 業 計 画				
1	福祉施設実習		9	福祉施設実習
2	福祉施設実習		10	福祉施設実習
3	福祉施設実習		11	福祉施設実習
4	福祉施設実習		12	福祉施設実習
5	福祉施設実習		13	福祉施設実習
6	福祉施設実習		14	福祉施設実習
7	福祉施設実習		15	福祉施設実習
8	福祉施設実習			
教科書・参考文献	「福祉施設実習ハンドブック」(株)みらい			
成績評価の方法及び基準	実習施設からの評価、実習に対する姿勢、実習日誌、レポート等により総合的に評価します。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
子どもの保健Ⅱ	1	1	後期	山田 陽子
授業のねらいと到達目標	生まれた時のこどもは未発達・未成熟である。子どもの発達は身体的発達・精神的発達・社会的発達を通して成長してゆく。この科目ではモデル人形などを用いて実際の乳幼児の計測、測定、発達課程などの演習を通して学習する。			
授業の方法	教科書とプリントの資料を使い、演習形式で行う			
事前・事後学習	教科書の事前予習を1時間程度必要また終了後は事後ノートの整理を行う			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・シラバスの説明	9	保健演習② 沐浴	
2	子どもの定義と発達段階の定義	10	子どもの成長と食生活	
3	子どもの身体の生理機能の発達	11	保健演習③ 調乳	
4	子どもの身体発育	12	保健演習④ 離乳食	
5	子どもの身体測定	13	子どもの事故防止	
6	子どもの身体の生理機能の発達①	14	救急法	
7	生理機能の測定	15	全体を通してのまとめ	
8	保健演習①、清潔			
教科書・参考文献	子どもの保健演習ノート 診断と治療社			
成績評価の方法及び基準	終了後に筆記試験を行い、60点以上を合格とする			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
乳児保育Ⅰ	2	1	通年	石山 真由美
授業のねらいと到達目標	乳児の保育の内容と方法の理解を図るために、基礎的な専門知識と技術の習得、及び自身を省み、さまざまな状況に応じた判断のできる保育者を目指して学び合う。			
授業の方法	講義と演習形式で行います。授業内テストを受験することが単位認定の必須条件。教科書を用い、必要に応じてプリントを配布します。			
事前・事後学習	授業内容に即し、予習・復習を行ってください。関連の本を探し、読み、本授業への更なる理解を深めましょう。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	16	おおむね6カ月～1歳3カ月未満の保育①	
2	乳児保育とは	17	おおむね6カ月～1歳3カ月未満の保育②	
3	乳児保育の変遷	18	おおむね1歳3カ月～2歳未満の保育①	
4	乳児保育の現状と課題①	19	おおむね1歳3カ月～2歳未満の保育②	
5	乳児保育の現状と課題②	20	おおむね2歳の保育	
6	乳児保育の様々な場	21	乳児保育における生活の援助（演習）①	
7	新たな保育制度における乳児保育の場	22	乳児保育における生活の援助（演習）②	
8	乳児保育と保育園文化①	23	乳児保育における保健活動①	
9	乳児保育と保育園文化②	24	乳児保育における保健活動②	
10	乳児保育と保育園文化③	25	乳児保育と連携	
11	乳児保育の環境と保育園の一日	26	保育の計画①	
12	おおむね6ヶ月未満の保育①	27	保育の計画②	
13	おおむね6ヶ月未満の保育②	28	家庭における子育て	
14	おおむね6ヶ月未満の保育③	29	保育所における育児支援	
15	おおむね6ヶ月未満の保育④	30	乳児保育の未来 まとめ	
教科書・参考文献	やさしい乳児保育（青踏社） 保育所保育指針解説書 プリント			
成績評価の方法及び基準	テスト50%、課題提出25%（正当な理由なくして期日内に提出しなければ減点）、演習25%、60%以上で合格とする。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
教育原理	2	1	前期	乳井 英雄
授業のねらいと到達目標	「教育」に対する多角的な視野を身につけるための基本として、現代社会における人間・教育・社会の問題、また、発達メカニズムと社会制度などに関して、その現状を理解し関連する知識を習得することを目指す。			
授業の方法	補助教材を使用しての講義形式。試験結果により単位認定とする。			
事前・事後学習	参考文献を事前に一読しておくこと。また、前回の授業内容を確認してから次回の講義に臨む姿勢を続けること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・シラバス説明	9	学校と教育Ⅱ	
2	教育とは何かⅠ	10	子どもと遊び	
3	教育とは何かⅡ	11	社会と子ども	
4	人間の発達と教育Ⅰ	12	現代社会と教育の諸問題	
5	人間の発達と教育Ⅱ	13	教育制度の現状と課題	
6	地域社会と生涯教育Ⅰ	14	グループディスカッション	
7	地域社会と生涯教育Ⅱ	15	全講義の復習と要点確認	
8	学校と教育Ⅰ			
教科書・参考文献	「幼児教育の原理」岸井勇雄著			
成績評価の方法及び基準	出欠席および受験資格に関しては学則規定に準ずる。試験は3回(定期試験・再試験・再々試験)までで、各々60点以上にて単位を認定することを原則とする。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
相談心理学	2	1	後期	阿部 千春
授業のねらいと到達目標	講義・演習を通して、相談を受ける側として大切といえる心理学やカウンセリングの知識とスキルを習得することを目的とします。			
授業の方法	教科書と講義資料を用い、講義形式で行います。7回目以降から演習も取り入れていきます。授業内で行う試験の受験とレポートの提出が単位認定の必須条件となります。			
事前・事後学習	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。授業後は、講義資料とハンドブック、ワークブックを読んで復習し、学習した内容の要点をノートにまとめます。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	カウンセリングの非言語的技法	
2	自己の心理と適応①	10	対話上の諸問題への対処法	
3	自己の心理と適応②	11	対人関係づくりに生かす理論と技法①	
4	カウンセリングの基礎① 精神分析理論	12	対人関係づくりに生かす理論と技法②	
5	カウンセリングの基礎② 交流分析理論	13	面接技法の基礎	
6	カウンセリングの基礎③ 論理療法・内観療法	14	面接技法の応用	
7	カウンセリングの言語的技法①	15	授業総括	
8	カウンセリングの言語的技法②			
教科書・参考文献	「ピアヘルパーハンドブック」「ピアヘルパーワークブック」NPO日本若者センター協編、図書文化			
成績評価の方法及び基準	授業内試験(70%)、レポート(20%)、感想カード(10%)によって総合的に評価します。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育内容総論	1	1	後期	福島 憲成
授業のねらいと到達目標	前期の幼児総合研究の内容をさらに深め、主にグループで実践的に共同研究します。			
授業の方法	課題を主にグループで実践的に共同研究し、同時に組織での責任・コミュニケーションを学びます。			
事前・事後学習	課題に対する学習・制作活動はグループのリーダーを中心に、時間内・時間外で自主的に行います。			
修条件				
授 業 計 画				
1	保育内容総論の目的	9	影絵・指人形劇制作・実践研究	
2	ペープサート制作・上演の実践研究	10	発表・合評	
3	ペープサート制作・上演の実践研究	11	デジタル紙芝居制作・実践研究	
4	ペープサート制作・上演の実践研究	12	撮影	
5	ペープサート制作・上演の実践研究	13	編集	
6	発表・合評	14	アフレコ	
7	影絵・指人形劇制作・実践研究	15	上演・合評	
8	影絵・指人形劇制作・実践研究			
教科書・参考文献	担当者の自主編集			
成績評価の方法及び基準	提出作品により総合評価します。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
教育心理学	1	1	前期	福島 豪
授業のねらいと到達目標	こどもの発達や学びの動機づけ等を教育心理の観点から学習していく。また、教育心理学の基礎となる代表的な説を、学者も含めいくつか取り上げ、演習として学習を深める。			
授業の方法	1) 教科書を用い、講義形式で行う。2) 演習として実践的な学習を行う。			
事前・事後学習	教科書について各回20分程度の予習が必要。また、講義時に提示する課題においては、十分な復習を要する。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	学習にかかわる感情と動機づけ①	
2	発達の諸相①	10	学習にかかわる感情と動機づけ②	
3	発達の諸相②	11	現代心理学とシュタイナー	
4	発達の諸相③	12	モンテッソーリの「こどもの家」	
5	記憶過程と学習①	13	個人差と不適応への対応①	
6	記憶過程と学習②	14	個人差と不適応への対応②	
7	思考過程と知能①	15	講義総括	
8	思考過程と知能②			
教科書・参考文献	【心理学のポイントシリーズ】教育心理学 三宮真智子編著 学文社			
成績評価の方法及び基準	定期試験のみ			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
指導計画論	2	1	後期	飯田 泰子
授業のねらいと到達目標	幼児期にふさわしい生活を営むために、幼稚園・保育所における指導計画立案の必要性について学習する。幼児のありのままの姿を受け止め、幼児の発達の実状を見通した計画立案の大切さを感じ取り、幼児期の生活に見通しをもつことの重要性を学んでいくことを目的とする。			
授業の方法	教科書やプリントを用い、講義形式で行う。また、指導計画作成の演習を4～5回取り入れ、より実践的な学習を進めていく。			
事前・事後学習	毎回、教科書には必ず目を通してこること。また、授業内の演習は、それまでの講義内容を踏まえた上で行うので、教科書だけでなく授業で使ったプリント類にも必ず目を通しておくこと。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・指導計画の意義	9	幼稚園遊戯会見学	
2	教育課程・保育計画と指導計画の関連	10	保育における反省・評価 演習（遊戯会レポート）	
3	演習（子どもに経験させたい年間の活動）	11	子育て支援と指導計画	
4	保育の実践と保育者の役割	12	幼稚園・保育所と小学校の連携	
5	長期・短期の指導計画	13	幼児理解と評価・指導計画改善のポイント	
6	演習（日案の作成）	14	まとめの演習	
7	園行事の意義と役割	15	全講義復習と確認まとめ	
8	演習（週日案の作成）			
教科書・参考文献	幼稚園教育指導資料第1集 「指導計画の作成と保育の展開」 幼稚園教育指導資料第2集 「幼児理解と評価」			
成績評価の方法及び基準	演習、レポートの内容を総合的に評価する。60%以上で合格。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育内容研究Ⅱ（言語）	2	1	通年	福島 豪
授業のねらいと到達目標	領域「言葉」の重要性を理解することを最終的なねらいとし、日本語の難しさや楽しさを学びつつ言葉の発達についても学習をすすめる。定期試験の受験・課題提出が単位認定の必須条件。			
授業の方法	1) 教科書を用い、講義形式で行う。2) 課題を提示し、演習形式で行う。			
事前・事後学習	教科書について各回30分程度の予習が必要、また、演習形式の講義時に提示する課題においては、十分な復習、事前準備を要する。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・保育内容研究Ⅱの目的	16	言語の育ちにかかわる諸課題①	
2	言語の獲得	17	言語の育ちにかかわる諸課題②	
3	領域「言葉」の目的	18	言語の育ちにかかわる諸課題③	
4	言語の発達①	19	保育者としての言葉がけ①	
5	言語の発達②	20	保育者としての言葉がけ②	
6	言語の発達③	21	書き言葉の育ち	
7	言葉の変容	22	作文について	
8	文学作品から言葉の楽しさを学ぶ①	23	物語の創作～挿絵から①	
9	文学作品から言葉の楽しさを学ぶ②	24	物語の創作～挿絵から②	
10	文学作品から言葉の楽しさを学ぶ③	25	言葉の様々な技術	
11	言葉遊びの歴史①	26	物語の創作～技術の応用①	
12	言葉遊びの歴史②	27	物語の創作～技術の応用②	
13	言葉遊びの歴史③	28	物語の創作～技術の応用まとめ	
14	ブックスタートについて	29	各作品合評	
15	前期講義総括	30	後期講義総括	
教科書・参考文献	新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 保育内容言葉 小田豊、芦田宏編 北大路書房			
成績評価の方法及び基準	定期試験（50%） 試験は計2回実施する。提出物（50%）			



科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育内容研究Ⅲ（環境）	2	1	通年	毛利 悦子
授業のねらいと到達目標	○幼児期における環境の意味、○子どもと環境のかかわり、○環境にかかわる指導の実際、○環境問題と子どもの生活について学習し理解を深める。			
授業の方法	教科書、DVDや資料を用いた講義形式に加え、敷地内や五稜郭公園での自然観察や自然を取り入れた活動を実際に行う。			
事前・事後学習	レポート作成に当たっては講義内容の復習や研究・まとめに相当時間が必要である。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション 環境とは	16	指導の実際	「子どもと地域環境」①
2	幼児教育の基本	17	〃	「子どもと地域環境」②
3	領域「環境」と他領域の関係	18	〃	「子どもと地域環境」③
4	保育と環境「環境を通しての生活」①	19	〃	「子どもと地域環境」④
5	保育と環境「環境を通しての生活」②	20	〃	「ものや道具にかかわって遊ぶ」
6	指導の実際 「自然にふれる 春」	21	〃	「文字や数量・図形に関心をもつ」
7	「自然にふれる 夏」	22	子どもとメディア環境	
8	〃 「自然にふれる 秋」	23	幼稚園、保育所、設置基準と園舎、園内環境	
9	〃 「自然にふれる 冬」	24	指導計画と環境構成①	
10	〃 「季節の変化に気づく」	25	指導計画と環境構成②	
11	〃 「生きものに親しみ、生命を大切にする」①	26	現代社会における子どもと環境①	
12	〃 「生きものに親しみ、生命を大切にする」②	27	現代社会における子どもと環境②	
13	〃 「自然を取り入れて生活をする」①	28	現代社会における子どもと環境③	
14	〃 「自然を取り入れて生活をする」②	29	現代社会における子どもと環境④	
15	〃 「自然を取り入れて生活をする」③	30	現代社会における子どもと環境⑤ まとめ	
教科書・参考文献	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育新解説」「幼保連携型認定こども園保育・教育要領解説」			
成績評価の方法及び基準	提出されたレポート等の課題評価 (60%) 実技(40%)			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
教育方法論	2	1	後期	乳井 英雄
授業のねらいと到達目標	保育と教育の歴史の変遷を始め、教育理論と方法論の論理基盤、教育制度と法律の関係など、幼児教育を中心とした教育目的や評価法も含めて、その知識を習得する。			
授業の方法	補助教材を使用しての講義形式。試験結果により単位認定とする。			
事前・事後学習	参考文献を事前に一読しておくこと。また、前回の授業内容を確認してから次回の講義に臨む姿勢を続けること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	評価の意義と役割	
2	保育と教育の歴史	10	遊びと環境設定	
3	子どもを理解するとは	11	社会と子どもと保育スタイル	
4	導く保育の理論Ⅰ	12	教育課程の変遷	
5	導く保育の理論Ⅱ	13	教育制度と法制度の関係	
6	見守る保育の理論Ⅰ	14	保育評価とこどもの実態	
7	見守る保育の理論Ⅱ	15	全講義の復習と重要ポイントの確認	
8	参加包育の理論			
教科書・参考文献	「教育課程の理論」磯部裕子著			
成績評価の方法及び基準	出欠席および受験資格に関しては学則規定に準ずる。試験は3回(定期試験・再試験・再々試験)までで、各々60点以上にて単位を認定することを原則とする。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
教育実習指導	0,5	1	前期	毛利 悦子
授業のねらいと到達目標	幼稚園教諭免許を取得するための必修科目。附属幼稚園での基本実習のための事前指導、実習指導、事後指導を行い、心構えや準備、子ども理解、指導計画などの理解を目的とする。			
授業の方法	教科書を用いる授業形式と指導計画の立案や教材研究(絵本を読む等)の演習形式で行う			
事前・事後学習	レポート作成に当たっては講義内容の復習や研究・まとめに相当時間が必要である。			
履修条件	教育実習を履修する学生が原則			
授 業 計 画				
1	オリエンテーション 教育実習の概要	9	教材研究③	
2	教育実習の目的	10	教育実習に対する自己研究①	
3	教育実習の心構えと準備①	11	教育実習に対する自己研究②	
4	教育実習の心構えと準備②	12	教育実習に対する自己研究③	
5	教育実習の心構えと準備③	13	実習事後指導 グループ協議①	
6	幼稚園見学と子どもとのふれあい	14	実習事後指導 グループ協議②	
7	教材研究①	15	実習事後指導 自己評価	
8	教材研究②			
教科書・参考文献	自分でつくる BOOK & NOTE			
成績評価の方法及び基準	レポート3回(100%)			

科目名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
教育実習	4	1・2	集中	実習担当者
授業のねらいと到達目標	学内で学習した専門教育の理論や技術に基づいて、教育現場（幼稚園）における園児や教職員と直接的に触れ合いながら、幼児の理解、指導技術の取得、職務の理解を深めることを目的とする。			
授業の方法				
事前・事後学習及び参考図書	学科科目の単位修得状況が不良の場合、本実習の履修が不許可になる場合がある。			
履修条件	教育実習（本実習）は、実習前において開講している学則必修科目および幼稚園経論二種免許状取得科目に関して未修得がある場合、または修得見込みが立たない場合は教育実習（本実習）を履修できない場合がある。			
授 業 計 画				
<p>まず、1年次に本学付属幼稚園にて1週間の基本実習を行います（1単位）</p> <p>次に2年次にまたは地方の幼稚園にて3週間の本実習を行います（3単位）</p> <p>なお、基準実習を終了していない学生は、本実習を履修することはできません。</p>				
教科書				
成績評価の方法及び基準	実習園からの評価を基準に決定する。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
器 楽 II	1	1	通年	相原千鶴子・上野美知子・斉藤佳子・谷藤有紀
授業のねらいと到達目標	保育士として必要なピアノ演奏技術を身につけ、自らの教職への適性を検討し、意欲を高めることを目的とする。			
授業の方法	教材を用い、個人レッスン形式で行い、音楽の基礎を修得させる。			
事前・事後学習	毎日の予習、復習を習慣づけるようにする必要がある。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・シラバス説明	16	ト長調の和音…主和音・属和音No.35・No.36	
2	ハ長調の和音…主和音・属七和音No.1～No.4	17	ト長調の下属和音No.37・No.38	
3	分散和音の伴奏形（その1・その2）	18	いろいろな伴奏形（その1・その2）	
4	分散和音の伴奏形（その3・その4）	19	いろいろな伴奏形（その3・その4）	
5	4分音符と8分音符のリズムNo.21・No.22	20	高音部 No.43・No.44	
6	4分音符と8分音符のリズムNo.23・No.24	21	高音部 No.45・No.46	
7	ハ長調の下属和音No.25・No.26	22	4分の3拍子と8分の3拍子	
8	ヘ長調の和音…主和音・属和音No.27・No.28	23	8分の3拍子と8分の6拍子	
9	ヘ長調の和音…主和音・属和音No.29・No.30	24	符点音符のリズムNo.49・No.50	
10	ヘ長調の下属和音No.31・No.32	25	符点音符のリズムNo.51・No.52	
11	ト長調の和音…主和音・属和音No.33・No.34	26	符点音符のリズムNo.53・No.54	
12	課題の練習①	27	課題の練習①	
13	課題の練習②	28	課題の練習②	
14	課題の練習③	29	課題の練習③	
15	課題の練習・小テスト	30	課題の練習・小テスト	
教科書・参考文献	教職課程のための大学ピアノ教本			
成績評価の方法及び基準	小テスト2回各20点・試験60点とする			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
幼児総合研究	2	1・2	前・後	福島 憲成
授業のねらいと到達目標	<p>子どもたちの「いのち」(智・心・体)を大きく伸ばせる教育者としての総合力を身につけます。            見えないものが見えるように、知識を高めます。            見えているものが本当に見えるように心を育てます。            より高くジャンプできるように体をきたえます。            何よりも、保育者・教育者自らがどう輝くかを課題とします。</p>			
授業の方法	<p>講義で学んだことを必ず実践・発表し、相互に評価し合って授業を展開していきます。            2年時後期は卒業研究発表会として、子ども学科2年間の学びの総まとめとして、劇の制作・上演を課題として行います。</p>			
事前・事後学習	講義で学ぶ理念・テーマ・課題について、実践発表のための制作・練習が重要です			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・幼児総合研究の目的	16	卒業研究発表会について・テーマについて	
2	輪になって遊ぼう	17	リーダー選出・制作部門分け 取り組み開始	
3	仲間作り 手遊び・ゲームの実践	18	制作・練習	
4	仲間作り 手遊び・ゲームの実践	19	制作・練習	
5	ことばを楽しむ 絵本の読み聞かせ	20	制作・練習	
6	紙芝居	21	制作・練習	
7	語り童話	22	制作・練習	
8	絵描き歌	23	制作・練習	
9	光と影で遊ぶ 手影絵・指影絵	24	制作・練習	
10	人形で遊ぶ 誰でも出来る腹話術	25	制作・練習	
11	劇遊び パネルシアターの制作	26	制作・練習	
12	制作実践	27	制作・練習	
13	制作実践	28	学内リハーサル	
14	作品発表	29	ホールリハーサル	
15	合評	30	卒業研究発表会	
教科書・参考文献	担当者の自主編集			
成績評価の方法及び基準	1年前期は、レポート・提出物・及び課題ごとの発表の評価(細かいポイントを事前に示した到達目標表)等により総合的に評価し、後期は創作劇の取り組みでの評価で行います。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
国際保育理解	1	1	後期	福島 憲成
授業のねらいと到達目標	世界がグローバル化している時代にあつて、私たちがより平和な、質の高い交際的交流協力関係を築いていくためには、言語、文化、歴史の理解はもとより、国際的な交流や協力の意義、それに内在する諸問題を深く理解していかなければなりません。この講座は函館市と姉妹都市関係にある韓国高陽市への研修旅行を軸にして韓国の幼稚園・保育園訪問・見学・交流を通して、アジアから世界へと広く繋がっている世界を学びます。			
授業の方法	韓国研修旅行の事前研修（講義）と韓国研修旅行により行います。			
事前・事後学習	研修旅行を充実したものにするためには、特に十分な事前学習が必要です。			
履修条件	学年は問いません。また、コンソーシアム函館に加盟している学校の単位互換としますので、函館の他短大・大学の学生の参加も可能です。			
授 業 計 画				
1	講義 オリエンテーション	9	研修旅行	
2	事前研修 韓国語	10	研修旅行	
3	事前研修 日韓の歴史的関係	11	研修旅行	
4	事前研修 現在の韓国について	12	研修旅行	
5	事前研修 海外旅行の準備・注意点	13	研修旅行	
6	研修旅行	14	研修旅行	
7	研修旅行	15	研修旅行のまとめ	
8	研修旅行			
教科書・参考文献				
成績評価の方法及び基準	国際交流の意欲、及びレポートにより評価する。			



[www.hakodate-otani.ac.jp](http://www.hakodate-otani.ac.jp)



# HAKODATE OTANI COLLEGE

講義概要 2017 こども学科 2年

# こども学科

## ＜教育目的＞

保育者として必要な基礎知識、技能を学ぶと同時に、職業人としての人格向上を目指し、すべての人に対してあたたかな心と優しさを持ち、ともに育ちあうことを大切にする人間性豊かな保育者・支援者の育成を目的とする。

## ＜教育目標＞

1. [多様な専門性を身につけた保育者の養成]  
社会や地域、時代のニーズにあった知識・技術を習得するための教育を実施する。
2. [人を育てる人・支援する人として社会性を持った保育者の養成]  
他と協調できる良好な人間関係の構築を目指したコミュニケーション能力の育成を目指すと同時に、社会人としての人間形成に努める。
3. [心豊かに表現し主体的で行動力のある保育者の養成]  
様々な活動体験・表現活動を通して、多様な価値観や豊富な生活力を育む。

## ＜学習成果＞

- ・ 保育の内容・方法を理解し、子どもの実態に応じた保育方法を探究できる。
- ・ 子どもの理解に基づいてコミュニケーションをとることができ、主体的行動がとれる。
- ・ 豊かな表現力を持って、子どもの理解と支援ができる。
- ・ 自己の保育者としての資質を客観視でき、より良い自己形成のための努力ができる。

## [講義概要]

### 授 業

- (1) 授業はすべて教育課程に基づいて実施する。
- (2) 授業は集中講義及び休業日に実施する科目を除き、すべて時間割に従って実施する。
- (3) 時間割は教育課程に基づき、学期毎に編成する。
- (4) 時間割や教室の変更は教務の承認を得なければならない。
- (5) 各講義の開講は次のとおりとする。



2017年 こども学科カリキュラム（平成28年度入学者）

分類	科目	授業区分	単位	授業形態	時間	1年(終了)		2年		卒業要件	幼児	保育士	主事(任) 社会福祉士
						前期	後期	前期	後期				
教養教育科目	人間学Ⅰ	講義	2	合同	2	2				◎		◎	
	人間学Ⅱ	講義	2	合同	2		2			△			
	こころの科学	講義	2	合同	2	2				△		◎	
	日本国憲法	講義	2	合同	2		2			△	◎		
	障害者福祉論	講義	2	合同	2				2	△			◎
	現代地域学論	講義	2	集中	2					△			
	情報処理演習	演習	2	分離	4	2	2			△	◎		
	英語	演習	2	分離	4			2	2	△		◎	
	英会話	演習	2	分離	4	2	2			△	◎		
	健康科学論	講義	1	合同	1	1				△	◎	◎	
	健康とスポーツ	演習	1	合同	3	3				△	◎	◎	
専門教育科目	幼児音楽Ⅰ	演習	2	分離	4	2	2			◎	◎	◎	
	器楽Ⅰ	演習	2	分離	4			2	2	◎		◎	
	声楽Ⅰ	演習	2	分離	4	2	2			◎		◎	
	幼児美術Ⅰ	演習	2	分離	4	2	2			◎	◎	◎	
	幼児体育Ⅰ	演習	2	分離	4			2	2	◎	◎	◎	
	基礎国語	講義	2	合同	2	2				○	◎	○	
	児童文化Ⅰ	講義	2	合同	2			2		◎		◎	
	社会福祉	講義	2	分離	2	2				○		◎	◎
	相談援助	演習	1	分離	2		2			○		◎	
	児童家庭福祉	講義	2	合同	2		2			◎		◎	
	保育原理	講義	2	合同	2	2				◎		◎	◎
	保育原理Ⅱ	講義	2	合同	2				2	○		○	
	社会的養護	講義	2	合同	2	2				○		◎	
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	分離	4		2			○		◎	
	保育実習指導Ⅱ	演習	1	分離	2			2		○		◎	
	保育実習指導Ⅲ	演習	1	分離	2			2		○		◎	
	保育実習Ⅰ	実習	4	集中	12		6	6		○		◎	
	保育実習Ⅱ	実習	2	集中	6			6		○		◎	
	保育実習Ⅲ	実習	2	集中	6			6		○		◎	
	子どもの保健ⅠA	講義	2	合同	2			2		◎		◎	
	子どもの保健ⅠB	講義	2	合同	2				2	○		◎	
	子どもの保健Ⅱ	演習	1	分離	2		2			◎		◎	
	子どもの食と栄養	演習	2	分離	4			2	2	○		◎	
	乳児保育Ⅰ	演習	2	分離	4	2	2			○		◎	
	保育の心理学Ⅰ	講義	2	合同	2			2		○		◎	
	家庭支援論	講義	2	合同	2				2	○		◎	
	保育相談支援	演習	1	分離	2			2		○		◎	
障がい児保育	演習	2	分離	4			2	2	○		◎		
社会的養護内容	演習	1	分離	2			2		○		◎		
教育原理	講義	2	合同	2	2				◎	◎	◎	◎	
保育者・教師論	講義	2	合同	2				2	○	◎	◎		

分類	科目	授業区分	単位	授業形態	時間	1年(終了)		2年		卒業要件	幼免	保育士
						前期	後期	前期	後期			
専門系教育科目	相談心理学	講義	2	合同	2		2			○	◎	○
	保育内容総論	演習	1	分離	2		2			○		◎
	教育心理学	演習	1	分離	2	2				◎	◎	◎
	教育財政学	講義	1	合同	1			1		○	◎	
	指導計画論	講義	2	合同	2		2			○	◎	◎
	保育内容研究Ⅰ・人	演習	2	分離	4			2	2	◎	◎	◎
	保育内容研究Ⅱ・言	演習	2	分離	4	2	2			◎	◎	◎
	保育内容研究Ⅲ・環	演習	2	分離	4	2	2			◎	◎	◎
	保育内容研究Ⅳ・健	演習	2	分離	4			2	2	◎	◎	◎
	保育内容研究Ⅴ・表	演習	2	分離	4			2	2	◎	◎	
	教育方法論	講義	2	合同	2		2			○	◎	
	教育実習指導	演習	1	合同	2	1		1		○	◎	
	教育実習	演習	4	集中	12	3		9		○	◎	
	保育・教職実践演習	演習	2	分離	4				4	○	◎	◎
	卒業研究	演習	1	合同	2				2	◎		
	楽器Ⅱ	演習	1	分離	2	1	1			○		
楽器Ⅲ	演習	1	分離	2			1	1	○			

◎印は卒業及び、幼免・保育士の必修科目です。

卒業するためには、その他に△印の中から12単位以上、○印の中から19単位以上履修すること。保育士の資格を取得する学生は、○印の中から選択必修。

#### ※実習履修について

—教育実習（幼稚園本実習）—

教育実習（本実習）は、実習前において開講している学則必修科目および幼稚園経論二種免許状取得科目に関して未履得がある場合、または修得見込みが立たない場合は教育実習（本実習）を履修することはできない。

—保育実習（保育園・施設）—

実習前において開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未取得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修することはできない。

#### こども学科コース選択科目

分類	科目	授業区分	単位	授業形態	時間	1年		2年		備考
						前期	後期	前期	後期	
幼児教育	こどもの造形と遊び	演習	1	幼教	2			2		
	こどもの音楽と遊び	演習	1	幼教	2			2		
	こどもの健康と遊び	演習	1	幼教	2				2	
保育福祉	社会福祉法制	講義	2	保福	2			2		社会福祉主事（任）
	ボランティア活動論	講義	2	保福	2				2	
	福祉住環境コーディネーターⅠ	演習	1	保福	2			2		
保育心理	教育カウンセリング	演習	1	保心	2				2	
	セラピー概論	講義	2	保心	2			2		
	保育心理演習	演習	1	保心	2			2		

#### 自由選択科目

分類	科目	授業区分	単位	授業形態	時間	1年(終了)		2年		備考
	幼児総合研究	演習	2	合同	4	2			2	
	国際保育理解	演習	1	合同	2		集中			海外研修
	ウィンタースポーツ	演習	1	合同	2				集中	

※自由選択科目の単位は卒業単位数には算入しない。

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
障害者福祉論	2	2	後期	小山 貴博
授業のねらいと到達目標	本講義では、障害者福祉にかかわる理念や概念、歴史、法・制度を概観し、現在に至るまでの背景を理解する。また、自立支援制度とその関連施策を踏まえ、福祉サービス提供の実際までを理解する。			
授業の方法	教科書の内容に沿ったスライド資料およびワークシートを用いて、講義形式で行う。筆記試験の受験が単位認定の必須条件となる。			
事前・事後学習	事前に教科書を熟読し、予習した上で講義を受講すること。また、各回の受講後には、講義内容を復習し、必要に応じて、各種統計資料や関連法の原文等を参照すること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	障害者の自立支援制度①	
2	障害者福祉の基本理念	10	障害者の自立支援制度②	
3	障害の概念	11	障害者の自立支援制度③	
4	障害者福祉の歴史	12	障害者福祉の関連施策	
5	障害者を支援するための施策	13	障害者への福祉サービス提供の実際	
6	身体障害者・知的障害者の福祉	14	講義内容の振り返り①	
7	精神障害者の福祉・発達障害者支援	15	講義内容の振り返り②	
8	障害者の生活実態			
教科書・参考文献	「社会福祉学習双書 2016 障害者福祉論」(全国社会福祉協議会)			
成績評価の方法及び基準	①ワークシートへの記入状況(40%)と②筆記試験(60%)を総合して評価する。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
英 語	2	2	通年	福島 豪
授業のねらいと到達目標	保育英語を通して英文法や長文読解等を学習する。また、英語圏の習慣や生活を知り、国際理解を深める。保育士になぜ英語学習が必要であるか、各自が十分に理解できるよう学習を進める。			
授業の方法	前期は英文法の理解を深めるため、演習を中心的に実施する。前期後半から後期にかけては保育英語（教科書）を中心とし講義を進めていく。定期試験を受験することが単位認定の必須条件。			
事前・事後学習	教科書について各回40分程度の予習が必要、また、講義時に提示する課題においては、次回講義までの十分な事前準備を要する。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション～なぜ英語学習が必要なのか	16	英文作成	
2	英文法①	17	発表	
3	英文法②	18	Chapter5	
4	英文法③	19	Chapter6	
5	英文法④	20	Chapter7	
6	英文法⑤	21	Chapter7	
7	英文法⑥	22	Chapter8	
8	英文法⑦	23	Chapter8	
9	Chapter1	24	Chapter9	
10	Chapter2	25	Chapter9	
11	Chapter3	26	Chapter10	
12	Chapter3	27	Chapter10	
13	Chapter4	28	Chapter11	
14	Chapter4	29	Chapter12	
15	前期講義総括	30	後期講義総括	
教科書・参考文献	保育英語—Children's Garden—成美堂			
成績評価の方法及び基準	定期試験（80％） 試験は計2回実施する。 発表（20％）			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
器 楽 I	2	2	通年	江端 深雪
授業のねらいと到達目標	保育において使用する楽器の基礎的奏法を理解し、グループ合奏の実践において習熟する。様々な楽器に触れる音楽体験によりリズム感などの基礎能力も養い、音楽の幅を広げる。 また、多人数で音楽を作り上げる過程において、表現の楽しさを体感することも大きなねらいである。			
授業の方法	1クラス3~4グループに分割し、各グループで合奏練習を行い、発表・振り返りを実施する。 後期は、主に卒研発表会舞台における音楽パートの練習を行う。			
事前・事後学習	合奏において割り当てられた自分の楽器は、次の授業までに演奏できるようパート練習すること。 またピアノについては、実習や小テストに向けて各自計画的な事前練習が重要。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション 授業概要の説明	16	ピアノ小テスト	
2	MLによるピアノ演奏復習	17	卒研発表会のためのグループワーク①	
3	ボイスパーカッション	18	卒研発表会のためのグループワーク②	
4	音楽ゲームを楽しむ	19	卒研発表会のためのグループワーク③	
5	スティック使用によるリズム応用学習	20	卒研発表会のためのグループワーク④	
6	保育における楽器の名称・基礎的奏法	21	卒研発表会のためのグループワーク⑤	
7	童謡を中心とした合奏曲①	22	卒研発表会のためのグループワーク⑥	
8	童謡を中心とした合奏曲②	23	卒研発表会のためのグループワーク⑦	
9	グループ発表 振り返り	24	卒研発表会のためのグループワーク⑧	
10	季節を中心とした合奏曲①	25	卒研発表会のためのグループワーク⑨	
11	季節を中心とした合奏曲②	26	卒研発表会のためのグループワーク⑩	
12	グループ発表 振り返り	27	卒研発表会のためのグループワーク⑪	
13	ジブリ・ディズニーを中心とした合奏曲①	28	卒研発表会のためのグループワーク⑫	
14	ジブリ・ディズニーを中心とした合奏曲②	29	ピアノ小テスト	
15	グループ発表 振り返り	30	まとめ	
教科書・参考文献	合奏譜プリント 年齢別2~5歳児 合奏楽譜百科（ひかりのくに）			
成績評価の方法及び基準	演奏課題曲2曲、弾き歌い2曲によるピアノ小テスト合格が必須条件（60%） グループにおける各自の楽器演奏、合奏曲の完成度（40%）			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
幼児体育 I	2	2	通年	中川 希望
授業のねらいと到達目標	幼児期に行われる運動遊びを実際に体験しながら、子どもの発育段階に応じた遊びの組み立て方を習得する。また、安全に配慮した環境設定を学ぶ。			
授業の方法	実技を行う。実技試験の受験およびグループ発表が単位認定の必須条件。			
事前・事後学習	実技テストについて、テスト内容の練習が相当時間必要となる。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・体カテスト①	16	グループ構成	
2	体カテスト②	17	グループワーク①	
3	なわ遊び	18	グループワーク②	
4	フラフープ遊び	19	グループワーク③	
5	マット運動	20	グループワーク④	
6	平均台・跳び箱	21	グループワーク⑤	
7	固定遊具遊び	22	グループワーク⑥	
8	ボール遊び① (投げる)	23	グループワーク⑦	
9	ボール遊び② (蹴る)	24	グループワーク⑧	
10	鬼ごっこ	25	グループワーク⑨	
11	リレー	26	グループワーク⑩	
12	ダンス①	27	グループワーク⑪ (フィールドワークを含む)	
13	ダンス②	28	グループワーク⑫ (フィールドワークを含む)	
14	リズム体操①	29	グループワーク⑬ (フィールドワークを含む)	
15	リズム体操②	30	グループ発表・講義総括	
教科書・参考文献				
成績評価の方法及び基準	実技試験 (80%) グループ発表 (20%)			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
児童文化	2	2	前期	毛利 悦子
授業のねらいと到達目標	社会の変化により、子どもの文化的生活も変わることの理解を深め、子どもたちの心を豊かにはぐくむ生活の在り方を探求する。			
授業の方法	資料、DVDを用いた講義形式で行い、伝承文化と子どもの生活では実技を行う。			
事前・事後学習	小論文作成に当たっては講義内容の復習や研究・まとめに相当時間が必要である。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション 児童文化とは	9	時代背景と子どもの生活⑤	
2	生育儀礼と子どもの生活	10	現代社会における子どもの生活・遊びと課題①	
3	伝承文化と子どもの生活・遊び①	11	現代社会における子どもの生活・遊びと課題②	
4	伝承文化と子どもの生活・遊び②	12	現代社会における子どもの生活・遊びと課題③	
5	時代背景と子どもの生活①	13	子どもたちに伝えていきたいこと①	
6	時代背景と子どもの生活②	14	子どもたちに伝えていきたいこと②	
7	時代背景と子どもの生活③	15	子どもたちに伝えていきたいこと③とまとめ	
8	時代背景と子どもの生活④			
教科書・参考文献	「遊びの指導」財団法人幼少年研究所			
成績評価の方法及び基準	小論文(70%)・実技(30%)			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育原理Ⅱ	2	2	後期	福島 豪
授業のねらいと到達目標	本講義では保育の原理の中でも特に「こども観」、「こども理解」、「子育て支援」、「保育の評価」等を取り上げながら、保育の根幹を学習していく。思想的見解を軸とし学習を進めていく。			
授業の方法	教科書を中心に講義を進めていく。			
事前・事後学習	教科書について各回20分程度の予習が必要。また、講義を通して自身の保育観を常に再考する姿勢を要する。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	子育て支援②	
2	こども観①	10	保育の評価	
3	こども観②	11	苦情への対応	
4	こども観③(小テスト)	12	保育に関わる教育学者について	
5	こども理解①	13	保育の現状と課題①	
6	こども理解②	14	保育の現状と課題②	
7	こども理解③(小テスト)	15	講義総括	
8	子育て支援①			
教科書・参考文献	最新保育講座1 保育原理 森上史朗他著 ミネルヴァ書房			
成績評価の方法及び基準	定期試験(60%)、授業内小テスト(40%)			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育実習指導Ⅱ	1	2	前期	神林 真里
授業のねらいと到達目標	保育実習指導Ⅰに続き、「保育実習Ⅱ」を円滑に進め、「保育実習Ⅰ」の学びを深化させるよう課題を明確にする。また、指導計画などを実践できるよう具体的内容と方法を習得する。			
授業の方法	教科書使用の講義形式。また、家庭福祉ニーズや子育てに関する事例などグループディスカッションを行なう。レポートなど課題提出と確認テストの合格が、単位認定の必須条件。			
事前・事後学習	保育所保育指針を熟読すること。 授業内確認テストは、それまでの講義内容を相当時間復習すること。			
履修条件	保育実習指導Ⅰを履修済			
授 業 計 画				
1	オリエンテーション 保育実習Ⅱの位置づけ	9	地域における子育て支援	
2	実習の目的と実際	10	子育て支援行事	
3	保育所保育指針の理解	11	実習課題の明確化	
4	保育所保育指針の理解	12	実習日誌	
5	保育者からの声	13	指導計画と指導案	
6	職員間の役割分担とチームワーク	14	自己評価と面談	
7	保護者支援とは	15	今後の学びにむけての課題	
8	保護者とのコミュニケーション			
教科書・参考文献	保育所保育指針 保育実習（中央法規） 他			
成績評価の方法及び基準	提出課題(50%)、確認テスト(50%)の総合評価。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育実習指導Ⅲ	1	2	前期	阿部 千春
授業のねらいと到達目標	保育実習Ⅰにおける社会福祉施設での現場実習を踏まえ、より実践的で総合的な視点からの施設機能や役割・対象児(者)への理解を深めるとともに、社会的拡がりのなかでの社会福祉施設の存在についての理解を深められるようにします。児童福祉施設等の機能と保育士の職務について具体的に理解できることを目的とします。			
授業の方法	講義資料を用いて、講義形式で行います。提出課題は単位認定の必須条件となります。			
事前・事後学習	自分が行く実習施設について、事前に調べておき、必要な知識を身につけておきます。			
履修条件	保育実習指導Ⅰを履修済			
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	施設における支援の実際③	
2	保育実習Ⅲの目的と内容	10	施設における支援の実際④	
3	児童養護系施設の役割と機能	11	施設における支援の実際⑤	
4	障害児(者)系施設の役割と機能	12	実習計画・援助計画	
5	保育士とソーシャルワーク	13	実習課題の明確化	
6	保育士と地域社会とのかかわり	14	評価とまとめ	
7	施設における支援の実際①	15	実習直前指導	
8	施設における支援の実際②			
教科書・参考文献	教科書：なし・資料配付、参考文献：「福祉施設実習」中央法規出版			
成績評価の方法及び基準	提出課題(70%)、感想カード(30%)によって総合的に評価します。			



科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
<b>保育実習 I (保育所)</b>	<b>2</b>	<b>1・2</b>	<b>通年</b>	<b>神林真里・小山貴博・中川希望</b>
授業のねらいと到達目標	教科として学んだ知識・技術を基礎として保育所の生活に参加し、乳幼児への理解と保育所の機能やそこで働く保育士の職務について学ぶ。			
授業の方法	保育所において、12日間に所要時間90時間以上の実習を行なう。(必修) 実習日誌やレポート等の提出は、単位認定の必須条件。			
事前・事後学習	保育実習指導 I を受講し、実習に必要な知識、技術の習得と準備を行うこと。			
履修条件	実習前において開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修できない場合がある。			
授 業 計 画				
1	保育所保育実習		9	保育所保育実習
2	保育所保育実習		10	保育所保育実習
3	保育所保育実習		11	保育所保育実習
4	保育所保育実習		12	保育所保育実習
5	保育所保育実習		13	保育所保育実習
6	保育所保育実習		14	保育所保育実習
7	保育所保育実習		15	保育所保育実習
8	保育所保育実習			
教科書・参考文献	保育所保育指針 保育実習(中央法規) 他			
成績評価の方法及び基準	保育所からの評価・日誌・出勤状況・レポートなどの総合評価 (100%)			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
<b>保育実習 I (施設)</b>	<b>2</b>	<b>1・2</b>	<b>通年</b>	<b>阿部千春・江端深雪・小山貴博</b>
授業のねらいと到達目標	社会福祉施設の生活に参加することで、対象児(者)への理解を深め、施設の機能と保育士の職務の習得を目的とします。			
授業の方法	社会福祉施設にて12日間(90時間以上)合計24日間の必修実習となります。実習日誌とレポートの提出は単位認定の必須条件となります。			
事前・事後学習	自分が行く実習施設について、事前に調べておき、必要な知識をつけておきます。			
履修条件	実習前において開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修できない場合がある。			
授 業 計 画				
1	福祉施設実習		9	福祉施設実習
2	福祉施設実習		10	福祉施設実習
3	福祉施設実習		11	福祉施設実習
4	福祉施設実習		12	福祉施設実習
5	福祉施設実習		13	福祉施設実習
6	福祉施設実習		14	福祉施設実習
7	福祉施設実習		15	福祉施設実習
8	福祉施設実習			
教科書・参考文献	「福祉施設実習ハンドブック」(株)みらい			
成績評価の方法及び基準	実習施設からの評価、実習に対する姿勢、実習日誌、レポート等により総合的に評価します。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
<b>保育実習Ⅱ（保育所）</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>前期</b>	<b>神林真里・小山貴博・中川希望</b>
授業のねらいと到達目標	保育実習Ⅰを踏まえ、保育支援の知識技術をより実践的に習得する。また、家庭や地域の生活にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解や判断力を養い、子育て支援に必要な能力を身につける。			
授業の方法	保育所において、12日間に所要時間90時間以上の実習を行なう。（選択）			
事前・事後学習	保育実習指導Ⅱを受講し、実習に必要な知識、技術の習得と準備を行なうこと。 保育実習Ⅰ（保育所）の成績を取得していること。 実習日誌やレポートなどの提出は、単位認定の必須条件。			
履修条件	実習前において開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修することはできない。			
授 業 計 画				
1	保育所保育実習		9	保育所保育実習
2	保育所保育実習		10	保育所保育実習
3	保育所保育実習		11	保育所保育実習
4	保育所保育実習		12	保育所保育実習
5	保育所保育実習		13	保育所保育実習
6	保育所保育実習		14	保育所保育実習
7	保育所保育実習		15	保育所保育実習
8	保育所保育実習			
教科書・参考文献	保育所保育指針 保育実習（中央法規） 他			
成績評価の方法及び基準	保育所からの評価、日誌、出勤状況、レポートなど総合評価（100%）			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
<b>保育実習Ⅲ（施設）</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>前期</b>	<b>阿部千春・江端深雪・小山貴博</b>
授業のねらいと到達目標	保育実習Ⅰにおける社会福祉施設での現場実習を踏まえ、より実践的で総合的視点からの施設機能や役割、対象児（者）への理解を深めるとともに、保育士として必要な知識・技術を習得することを目的とします。			
授業の方法	社会福祉施設にて12日間（90時間以上）の選択必修実習となります。実習日誌とレポートの提出は単位認定の必須条件となります。			
事前・事後学習	自分が行く実習施設について、事前に調べておき、必要な知識をつけておきます。			
履修条件	実習前において開講されている学則必修科目、および保育士資格取得科目に関して未修得がある場合、または修得の見込みが立たない場合、保育実習を履修することはできない。			
授 業 計 画				
1	福祉施設実習		9	福祉施設実習
2	福祉施設実習		10	福祉施設実習
3	福祉施設実習		11	福祉施設実習
4	福祉施設実習		12	福祉施設実習
5	福祉施設実習		13	福祉施設実習
6	福祉施設実習		14	福祉施設実習
7	福祉施設実習		15	福祉施設実習
8	福祉施設実習			
教科書・参考文献	参考文献：「福祉施設実習」中央法規出版			
成績評価の方法及び基準	実習施設からの評価、実習に対する姿勢、実習日誌、レポート等により総合的に評価します。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
こどもの保健Ⅰ-A	2	2	前期	中村 ひとみ
授業のねらいと到達目標	生まれた時の子どもは未発達・未成熟である。子どもの発達は身体的発達・精神的発達・社会的発達を通して成長してゆく。健やかな発達を願うところを持ちながら大人は成長を導く使命がある。大人へと向かう自立途中の支援を念頭に置きながら誕生から幼児期までを知る。			
授業の方法	教科書とプリントの資料を使い、講義形式で行う。			
事前・事後学習	教科書の事前予習を1時間程度必要、講義終了後は事後ノートの整理を行う。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	子どもの身体の運動機能の発達	
2	健康の定義・子どもの健康	10	子どもの精神機能の発達	
3	出生前の胎児の発育と母性①	11	子どもの心の健康	
4	出生前の胎児の発育と母性②	12	養護技術演習（沐浴、清潔）	
5	子どもの身体の発育①	13	保育環境の整備と衛生管理	
6	子どもの身体の発育② 成長演習	14	子どもの事故防止	
7	子どもの身体の生理機能の発達①	15	全体を通してのまとめ	
8	子どもの身体の生理機能の発達②			
教科書・参考文献	保育・教育ネオシリーズ21 こどもの保健 同文書院			
成績評価の方法及び基準	終了後に筆記試験を行い、60点以上を合格とする。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
こどもの保健Ⅰ-B	2	2	後期	中村 ひとみ
授業のねらいと到達目標	子どもの健康は周囲の大人に任されている。保育者として健やかな成長のために保健衛生・病気と予防について基礎的知識を学んでおく必要がある。また乳幼児健診や母子保健についても学ぶ。前期の保健Ⅰ-Aで学んだことを基礎にⅠ-Bでは具体的な子どもの疾患についての知識を持つ。			
授業の方法	教科書とプリントの資料を使い、講義形式で行う			
事前・事後学習	教科書の事前予習を1時間程度必要、講義終了後は事後ノートの整理を行う。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーションとシラバスの説明	9	子どもの疾患④先天性疾患	
2	子どもの健康状態の観察	10	子どもの疾患⑤その他	
3	おもな症状と対応①	11	子どもの事故と対応	
4	おもな症状と対応②	12	救急時の対応	
5	子どもの疾患①アレルギー疾患	13	母子保健政策と乳幼児健診	
6	子どもの疾患②感染症	14	保育園と保育士の役割	
7	子どもの疾患③感染症	15	全体を通してのまとめ	
8	感染症と予防接種			
教科書・参考文献	保育・教育ネオシリーズ21 こどもの保健 同文書院			
成績評価の方法及び基準	終了時に筆記試験を行い、60点以上を合格とする。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
こどもの食と栄養	2	2	通年	山田 陽子
授業のねらいと到達目標	<p>子どもの栄養と食生活は生涯にわたる健康と生活の基礎となる。そのことを踏まえてすこやかな心身の発達を助長するために、栄養素の基礎知識からはじめ、食生活はどうあったらよいかを理解する。保育者として子どもの食生活に関わる要素を通年にわたり学習する。特に近年は子どもに対しての「食育」の観点からも子どもの栄養は重要視されている。それらを講義の中に取り入れ教材作成を行う。また子どもに限らず栄養学の要素も学習し、自分自身の健康を振り返る機会とする。</p>			
授業の方法	講義と演習を組み合わせる行う			
事前・事後学習	授業の予定と終了後に教本の復習			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーションとシラバスの説明	16	授乳の生理、ミルクの栄養と組成	
2	健康と食生活	17	調乳法の演習	
3	栄養素の働き（栄養とは、炭水化物と食品、脂肪）	18	離乳の意義、必要性	
4	栄養素の働き（たんぱく質と食品、無機質と食品）	19	離乳食の段階と食品選択	
5	栄養素の働き（ビタミンと食品、）	20	離乳期初期の食事作成①	
6	子どもの栄養所要量と発育	21	離乳期初期の食事作成②	
7	子どもの栄養と身体の発育	22	離乳期中期の食事作成①	
8	食品の摂取の基本	23	離乳期中期の食事作成②	
9	献立作成の基礎	24	離乳期後期の食事作成①	
10	子どもの献立作成、演習	25	離乳期後期の食事作成②	
11	栄養価計算の基礎	26	幼児の食事の事故	
12	保育園での食事について	27	食育について	
13	子どもの栄養と生理	28	幼稚園での食事について	
14	消化と吸収の生理	29	特殊な病気と食事	
15	からだの組成と栄養	30	全体を通してのまとめ	
教科書・参考文献	最新こどもの食と栄養 新カラーチャート食品成分表		学建書院 教育図書	
成績評価の方法及び基準	前記筆記試験と後期筆記試験の合計点の平均点 60 点以上で合格			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育の心理学 I	2	2	前期	阿部 千春
授業のねらいと到達目標	保育士・幼稚園教諭として、生涯発達の視点から子どもを捉えられるように、それぞれの発達段階の特徴とその意義について理解を深めることを目的とします。			
授業の方法	教科書を用い、講義形式で行います。授業内で行う試験を受験することとノート提出が単位認定の必須条件となります。			
事前・事後学習	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。授業後は、教科書とノートを用いて復習し、ノート整理をします。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	愛着と親子関係①	
2	生涯発達における乳幼児期	10	愛着と親子関係②	
3	発達の原理	11	社会性の発達と友達関係	
4	からだと運動の発達	12	自己とパーソナリティの発達	
5	感覚と知覚の発達	13	道徳性と向社会性の発達	
6	認知と思考の発達	14	乳幼児期における発達支援のあり方	
7	感情と動機づけの発達	15	授業総括	
8	言葉とコミュニケーションの発達			
教科書・参考文献	教科書：「たのしく学べる乳幼児の心理」福村出版、参考文献：「図で理解する発達心理学」福村出版			
成績評価の方法及び基準	授業内試験（70%）、ノート提出（20%）、感想カード（10%）によって総合的に評価します。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
家庭支援論	2	2	後期	小山 貴博
授業のねらいと到達目標	本講義では、家庭の意義や機能を理解し、併せて子育て家庭を取り巻く状況等を理解する。また、子育て家庭を支援するための体制と多様な子育て家庭のニーズに応じた支援の展開を理解する。			
授業の方法	教科書の内容に沿ったスライド資料およびワークシートを用いて、講義形式で行う。筆記試験の受験が単位認定の必須条件となる。			
事前・事後学習	事前に教科書を熟読し、予習した上で講義を受講すること。また、各回の受講後には、講義内容を復習し、必要に応じて、各種統計資料や関連法の原文等を参照すること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	子育て家庭支援の実際①	
2	家庭の意義・機能と子育て家庭支援の必要性	10	子育て家庭支援の実際②	
3	保育者による子育て家庭支援	11	特別なニーズを持つ家庭への支援①	
4	子育て家庭を取り巻く状況①	12	特別なニーズを持つ家庭への支援②	
5	子育て家庭を取り巻く状況②	13	特別なニーズを持つ家庭への支援③	
6	子育て家庭を支援する制度	14	講義内容の振り返り①	
7	子育て家庭を支援する政策の動向	15	講義内容の振り返り②	
8	子育て家庭支援の基礎			
教科書・参考文献				
成績評価の方法及び基準	① ワークシートへの記入状況(40%)と②筆記試験(60%)を総合して評価する。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育相談支援	1	2	前期	葛西 真理子
授業のねらいと到達目標	保育に関する専門知識・技術を背景にしなが、子育ての問題や課題に対しての理解を深めると共にその現状と必要性を学ぶ。			
授業の方法	配布資料等を用い講義形式で行う。具体的事例やロールプレイを取り入れる。			
事前・事後学習	授業のまとめレポートの提出時や授業内テストについては、それまでの講義内容の復習が相当時間必要となる。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・子どもを取り巻く環境とその変化	9	保育相談支援の方法②	
2	幼児理解①	10	保育相談支援の方法③（小テスト2回目）	
3	幼児理解②	11	保育相談支援とその現状①	
4	保育士の役割①	12	保育相談支援とその現状②	
5	保育士の役割②（小テスト1回目）	13	子育て支援	
6	保育相談支援の基本①	14	専門機関・地域との連携	
7	保育相談支援の基本②	15	課題と問題点	
8	保育相談支援の方法①			
教科書・参考文献	適宜、プリントを配布する。			
成績評価の方法及び基準	授業内テスト（60%） 授業内テスト2回（30点×2）の受験を必須とする。 ロールプレイのまとめや提出されたレポート等の課題評価（40%）			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
障がい児保育	2	2	通年 (前期)	阿部 千春
授業のねらいと到達目標	本授業では、保育・幼児教育における障がい児保育の意義についての理解を深め、障がいの特徴や障がいのある子どもの心理的な理解と基本的なかわり方のポイントや支援の方法、保育上の留意点などについて習得することを目的とします。			
授業の方法	講義資料を用いて講義形式で行います。課題の提出、授業内で行う確認テストの受験が単位認定の必須条件となります。			
事前・事後学習	授業後は、講義資料や関連する書籍を読むなどして、復習してください。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	注意欠如・多動性障害（AD/HD）の理解と保育②	
2	障がい児保育とは	10	限局性学習障害（SLD）の理解と保育①	
3	乳幼児期に診断される障害・症状	11	限局性学習障害（SLD）の理解と保育②	
4	知的発達障害の理解と保育①	12	環境調整のあり方①	
5	知的発達障害の理解と保育②	13	環境調整のあり方②	
6	自閉症スペクトラム障害（ASD）の理解と保育①	14	環境調整のあり方③	
7	自閉症スペクトラム障害（ASD）の理解と保育②	15	授業総括	
8	注意欠如・多動性障害（AD/HD）の理解と保育①			
教科書・参考文献	参考文献：「発達障害のある子どもができることを伸ばす！幼児編」日東書院本社			
成績評価の方法及び基準	提出課題（50%）、確認テスト（40%）、感想カード（10%）によって総合的に評価します。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
障がい児保育	2	2	通年 (後期)	細谷 一博
授業のねらいと到達目標	本講義では様々な障害のある子どもをどの様に理解し、支援方法について具体的な事例を通じて理解する。その上で、保育/学校場面における支援の実際を具体的に理解する。			
授業の方法	講義形式 (適宜演習)			
事前・事後学習	毎回講義終了後に、その日学んだことをレポートにまとめて提出する。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	「障がい」とは?	9	疾患を抱えている子の理解①	
2	「気になる子」ってどんな子?	10	疾患を抱えている子の理解②	
3	「視覚障がい」の理解と支援	11	疾患を抱えている子の理解③	
4	「聴覚障がい」の理解と支援	12	幼児を対象とした発達検査①	
5	「知的障がい」の理解と支援	13	幼児を対象とした発達検査②	
6	「運動障がい」の理解と支援	14	障害のある人の生活と理解①	
7	「発達障がい」の理解と支援	15	障害のある人の生活と理解②	
8	「病虚弱児」の理解と支援			
教科書・参考文献	毎時間、講義資料を配布する			
成績評価の方法及び基準	授業内提出課題(20%)、レポート(50%)、演習課題への取り組み状況(30%)を総合的に評価する。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
社会的養護内容	1	2	前期	小山 貴博
授業のねらいと到達目標	本講義では、社会的養護を実践する各種の児童福祉施設について理解を深める。その上で、各施設における支援の対象児とその家族、関係機関、計画の立案について具体的に理解する。			
授業の方法	出題される課題に沿ってグループワークを進め、その成果を発表する、演習形式で行う。演習課題への取り組みとレポートの提出が単位認定の必須条件となる。			
事前・事後学習	毎回の講義内だけでは、グループワークの成果が完成しないこともある。その場合、講義の事前・事後に、グループ内のメンバー同士で協力し合い、計画的に成果発表の準備を進める必要がある。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・社会的養護の実施体系	9	対象児とその家族の理解③【グループワーク】	
2	児童福祉施設の理解①【グループワーク】	10	対象児とその家族の理解④【成果発表】	
3	児童福祉施設の理解②【グループワーク】	11	支援計画の立案①【グループワーク】	
4	児童福祉施設の理解③【グループワーク】	12	支援計画の立案②【グループワーク】	
5	児童福祉施設の理解④【成果発表】	13	支援計画の立案③【グループワーク】	
6	施設養護のプロセス	14	支援計画の立案④【成果発表】	
7	対象児とその家族の理解①【グループワーク】	15	支援計画の修正【レポート提出】	
8	対象児とその家族の理解②【グループワーク】			
教科書・参考文献	適宜、資料を配布する。			
成績評価の方法及び基準	①演習課題への取り組み状況(グループワーク・成果発表; 50%)と②レポート(50%)を総合して評価する。なお、再々試験は実施しない。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育者・教師論	2	2	後期	齋藤 敏子
授業のねらいと到達目標	本講義では、幼児教育における保育者・教師の現代的役割を認識するとともに、より良い保育者・教師となる意欲を高めることを目的とする。			
授業の方法	教科書を用い講義形式で行う。小グループ討議の上、自らの意見をまとめレポートする。			
事前・事後学習	事前には教科書の指示された範囲を熟読すること。事後には講義3回に1回程度のレポート提出を求める。添削返却されたレポートを必要に応じて再提出する。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション、保育者に対するイメージ	9	保護者や家庭と共に歩む保育者（3）情報公開	
2	法の規定と社会の要請における保育者の役割	10	保育者・教師の研修の場と機会（1）	
3	乳幼児の求める保育者（1）思いや育ち	11	保育者・教師の研修の場と機会（2）	
4	乳幼児の求める保育者（2）体を動かして	12	保育の専門性（1）	
5	乳幼児の求める保育者（3）文化との出会い	13	保育の専門性（2）	
6	乳幼児の求める保育者（4）自然との出会い	14	保育の専門性（3）	
7	保護者や家庭と共に歩む保育者（1）理解	15	まとめ	
8	保護者や家庭と共に歩む保育者（2）支援			
教科書・参考文献	「保育者論」汐見稔幸編・大豆生田啓友編 ミネルヴァ書房			
成績評価の方法及び基準	グループ討議への参加態度及び提出されたレポートにより評価する。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
教育財政学	1	2	前期	乳井 英雄
授業のねらいと到達目標	資本主義経済の本質である市場原理を基本に、金融政策や財政政策により経済活動がどのようにコントロールされているのか、各々の政策とメカニズムを学ぶ。また、あわせて労働問題や福祉問題、教育問題も財政との関わりとしてとらえながら学ぶ。			
授業の方法	補助教材を使用しての講義形式。小テストとレポート提出等の結果により単位認定とする。			
事前・事後学習	参考文献を事前の一読しておくこと。また、前回の授業内容を確認してから次回の講義に臨む姿勢を続けること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・シラバス説明	9	教育と労働問題	
2	経済主体について	10	労働と法	
3	教育と経済活動	11	財政と社会保障	
4	市場について	12	社会保障と教育・福祉	
5	金融と金融政策	13	教育と財政の関わりⅠ	
6	財政と財政政策	14	教育と財政の関わりⅡ	
7	租税と財政	15	全講義の復習とポイントチェック	
8	労働問題とは			
教科書・参考文献	「学校経営」小島弘道著			
成績評価の方法及び基準	出欠席および受験資格に関しては学則規定に準ずる。成績評価は毎講義ごとに提出するレポート内容を重視する。小テストまたはレポート作成をほぼ数回行うので、すべて参加すること。小テスト(30%)・レポート(70%)			



科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育内容研究Ⅰ（人間関係）	2	2	通年	乳井 英雄
授業のねらいと到達目標	子どもの主体性を尊重しながら、内面から成長し発達することを重視するスタイルが定着している昨今、その要因となりうる社会の変化もまた著しい。そこで、子どもの視点から教育や援助のあり方をとらえながら、同時に、社会・文化・価値等の時代要因の変化を関連づけて探求する。			
授業の方法	助教材を使用しての講義・演習形式。小テストとレポート提出等の結果により単位認定とする			
事前・事後学習	参考文献を事前に一読しておくこと。また、前回の授業内容を確認してから次回の講義に臨む姿勢を続けること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	16	保護者の役割Ⅰ	
2	領域「人間関係」とはⅠ	17	保護者の役割Ⅱ	
3	領域「人間関係」とはⅡ	18	保護者の援助Ⅰ	
4	現代社会の実情と人間関係Ⅰ	19	保護者の援助Ⅱ	
5	現代社会の実情と人間関係Ⅱ	20	協同性の育ちⅠ	
6	現代社会の実情と人間関係Ⅲ	21	協同性の育ちⅡ	
7	現代社会の実情と人間関係Ⅳ	22	協同性の育ちⅢ	
8	人と係わる力の発達Ⅰ	23	世代間交流の意義Ⅰ	
9	人と係わる力の発達Ⅱ	24	世代間交流の意義Ⅱ	
10	人と係わる力の発達Ⅲ	25	共同作業と実践Ⅰ	
11	人と係わる力の発達Ⅳ	26	共同作業と実践Ⅱ	
12	子どもの体験と学び方Ⅰ	27	共同作業と実践Ⅲ	
13	子どもの体験と学び方Ⅱ	28	グループディスカッションⅠ	
14	子どもの体験と学び方Ⅲ	29	グループディスカッションⅡ	
15	子どもの体験と学び方Ⅳ	30	グループごとの内容確認と講義全体の復習	
教科書・参考文献	保育内容「人間関係」榎沢良彦著			
成績評価の方法及び基準	出欠席および受験資格に関しては学則規定に準ずる。成績評価はグループディスカッションにおける内容報告書、および講義内で行うレポート提出を重視するので、できる限り欠席をしないこと。レポート提出(70%)・報告書(30%)			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育内容研究Ⅳ（健康）	2	2	通年	中川 希望
授業のねらいと到達目標	子どもを取り巻く環境の悪化から、現代社会における子どもの健康問題が深刻化している。保育者として現代社会の健康問題を理解し、子どものこころとからだの健康や安全な生活が守れる資質を身に付け、実践力を養う。			
授業の方法	毎時間資料を配布し、講義形式で行う。テストの受験及びレポート提出が単位認定の必須条件。			
事前・事後学習	テストまでの講義内容の復習が相当時間必要となる。また、グループワークはグループ発表を行うための予習・復習が相当時間必要となる。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・健康とは	16	グループ構成	
2	子どものからだの発達	17	グループワーク①	
3	子どものこころの発達	18	グループワーク②	
4	子どものこころとからだ	19	グループワーク③	
5	領域「健康」①	20	グループワーク④	
6	領域「健康」②	21	グループワーク⑤	
7	安全管理①（事故防止）	22	グループワーク⑥	
8	安全管理②（安全教育）	23	グループワーク⑦	
9	子どもを取り巻く課題	24	グループワーク⑧	
10	子どもの学習過程	25	グループワーク⑨	
11	子どもの運動遊び①	26	グループワーク⑩	
12	子どもの運動遊び②	27	グループワーク⑪（フィールドワークを含む）	
13	基本的生活習慣①	28	グループワーク⑫（フィールドワークを含む）	
14	基本的生活習慣②	29	グループワーク⑬（フィールドワークを含む）	
15	保育計画と指導案	30	グループ発表・講義総括（レポート提出）	
教科書・参考文献	保育内容「健康」（ミネルヴァ書房）、幼児のからだところを育てる運動遊び（杏林書院）			
成績評価の方法及び基準	テスト（80%） レポート（20%） レポート提出1回を条件とする。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育内容研究Ⅴ（表現）	2	2	通年	神林 真里
授業のねらいと到達目標	<p>&lt;幼稚園教育要領&gt;および&lt;保育所保育指針&gt;に設定される領域「表現」について理解を深め、その視点から子ども達の育ちと保育のあり方を考える。また子ども達の感性や創造性をささえ育てるために、自ら表現者として遊びや体験を実践し、どのような援助や展開をすべきなのか学びを深める。</p>			
授業の方法	<p>教科書や事例を基に、講義やグループディスカッションを行なう。また後半は自ら実践することで、感性や表現性を豊かに充実させるよう総合表現体験を行なう。 レポート提出や筆記試験の合格が単位認定の必須条件。</p>			
事前・事後学習	<p>講義の他、レポート課題やグループワークがあるので、教科書や講義内容の復習を行なうこと。また、総合表現実践では、完成にむけて主体的な継続的制作時間を必要とする。</p>			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション 保育内容の諸領域	16	表現をつくり出す（イメージの実現）	
2	保育における領域「表現」の基礎理論	17	表現をつくり出す（イメージの共有）	
3	乳児の発達にあらわれる表現	18	総合表現 実践	
4	幼児の発達にあらわれる表現	19	総合表現 実践	
5	子どもの遊びと表現の育ち	20	総合表現 実践	
6	遊びの意義と種類	21	総合表現 実践	
7	遊びの発達	22	総合表現 実践	
8	体験と感性の育ち	23	総合表現 実践	
9	保育のなかの表現を支える環境（時間・空間・物）	24	総合表現 実践	
10	保育のなかの表現を支える環境（人・社会）	25	総合表現 実践	
11	美しさの気づき	26	総合表現 実践	
12	コミュニケーションとしての表現	27	総合表現実践からの課題	
13	保育者がささえる表現	28	現代社会と表現の問題 ①感情表現	
14	表現を楽しむ	29	現代社会と表現の問題 ②ねじれた表現	
15	保育者自身の表現	30	現代社会と表現の問題 ③表現の評価	
教科書・参考文献	事例で学ぶ保育内容領域表現（萌文書林） 保育内容・表現（同文書院）他			
成績評価の方法及び基準	筆記試験(50%)、レポートや総合表現実践などの課題評価(50%)を総合し評価する。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
教育実習指導	0.5	2	前期	乳井 英雄
授業のねらいと到達目標	2年次に行う幼稚園本実習のための、事前・実習中・事後指導です。教育実習に対する心構えに始まり、目的・内容・準備等を理解するとともに、実習終了後には自己評価・反省・評価の理解等を行います。			
授業の方法	補助教材を使用しての講義形式。提出書類により単位認定とする。			
事前・事後学習	参考文献を事前に一読しておくこと。また、前回の授業内容を確認してから次回の講義に臨む姿勢を続けること。			
履修条件	教育実習を履修する学生が原則			
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	指導案の理解Ⅱ	
2	教育実習の目的と内容Ⅰ	10	実習生の立場	
3	教育実習の目的と内容Ⅱ	11	幼稚園とは	
4	心構えと準備Ⅰ	12	実習に向けての自己研究Ⅰ	
5	心構えと準備Ⅱ	13	実習に向けての自己研究Ⅱ	
6	実習日誌の理解Ⅰ	14	実習中指導の意味と理解	
7	実習日誌の理解Ⅱ	15	事後指導の内容と準備	
8	指導案の理解Ⅰ			
教科書・参考文献	「教育実習ガイドブック」ガイドブック編集委員会編			
成績評価の方法及び基準	出欠席および受験資格に関しては学則規定に準ずる。教育実習を通じての様々な提出書類がありますので、それらをすべて提出していることが単位認定条件です。 なお、実習中止の場合は単位認定はされません。			

科目名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
教育実習	4	1・2	集中	実習担当者
授業のねらいと到達目標	学内で学習した専門教育の理論や技術に基づいて、教育現場（幼稚園）における園児や教職員と直接的に触れ合いながら、幼児の理解、指導技術の取得、職務の理解を深めることを目的とする。			
授業の方法				
事前・事後学習及び参考図書	学科科目の単位修得状況が不良の場合、本実習の履修が不許可になる場合がある。			
履修条件	教育実習（本実習）は、実習前において開講している学則必修科目および幼稚園経論二種免許状取得科目に関して未履得がある場合、または修得見込みが立たない場合は教育実習（本実習）を履修することはできない。			
授 業 計 画				
まず、1年次に本学付属幼稚園にて1週間の基本実習を行います（1単位） 次に2年次にまたは地方の幼稚園にて3週間の本実習を行います（3単位） なお、基準実習を終了していない学生は、本実習を履修することはできません。				
教科書				
成績評価の方法及び基準	実習園からの評価を基準に決定する。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育・教職実践演習	2	2	後期	毛利 悦子
授業のねらいと到達目標	保育者としての教育観、使命感や社会的責任について理解を深めるとともに、課題解決の具体的方策を探求する。また、演習を通して保育士・教師としての実践力を高めていく。			
授業の方法	資料、関連DVDを用いた講義公式とグループ協議やグループ研究等の演習を併せて行う。			
事前・事後学習	小論文及びレポート作成では講義の内容の復習や研究・まとめに相当時間が必要になる。演習ではグループでの協同研究や協働作業の時間が相当数必要となる。			
履修条件	保育実習、幼稚園教育実習終了			
授 業 計 画				
1	オリエンテーション 幼児教育の現状と課題	16	研究保育の準備 環境構成・教材の準備①	
2	幼稚園教育習を振り返る① グループ協議と発表	17	函館の幼児教育 施設見学と特別講義①	
3	幼児教育の課題の探求と解決の方策①	18	函館の幼児教育 施設見学と子どもとのふれ合い	
4	幼稚園教育習を振り返る②グループ協議と発表	19	幼児期の特別支援教育と保護者理解	
5	幼児教育の課題の探求と解決の方策②	20	研究保育の準備 環境構成・教材の準備②	
6	幼稚園教育習を振り返る③	21	函館の幼児教育 認定こども園の運営①	
7	幼児教育の課題の探求と解決の方策③	22	函館の幼児教育 特別講義「認定こども園と保育者」	
8	幼稚園教育習を振り返る④	23	幼児教育の課題の探求と解決の方策⑧	
9	幼児教育の課題の探求と解決の方策④	24	研究保育の準備 環境構成、教材の準備③	
10	幼稚園教育習の成果のまとめ レポート作成	25	幼児教育の課題の探求と解決の方策⑨	
11	幼児教育の課題の探求と解決の方策⑤	26	研究保育の準備 環境構成、教材の準備④	
12	研究保育の指導計画立案 グループ研究①	27	研究保育 (附属幼稚園)	
13	幼児教育の課題の探求と解決の方策⑥	28	研究保育 (附属幼稚園)	
14	研究保育の指導計画立案 グループ研究②	29	研究保育の振り返りと成果のまとめ	
15	幼児教育の課題の探求と解決の方策⑦	30	研究保育の振り返りと成果のまとめ	
教科書・参考文献	「遊びの指導」 幼稚園教育要領解説 保育所保育指針解説 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領			
成績評価の方法及び基準	小論文(30%) レポート(30%) 演習「研究授業」(40%)			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
卒 業 研 究	1	2	後期	こども学科教員
授業のねらいと到達目標	本学科で学んだ理論と実践を結びつけ、子どもを対象とするひとつの舞台発表として総合表現する。また集団のなかでの自己の役割を認識し、様々な場面で的確に行動できる社会性・協調性を養う。			
授業の方法	卒業研究発表会へ向けての舞台、製作、音楽等の実践演習。 発表会開催のための宣伝広報・庶務等を含む行事運営のための実務演習。			
事前・事後学習	舞台発表のための製作・練習など各部門における活動、および発表会に係る広報・庶務等に関しては、発表会成功に向け、リーダーを中心に学生が主体的に行動すること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	発表会のための部門別グループワーク・舞台練習	
2	役割分担	10	発表会のための部門別グループワーク・舞台練習	
3	発表会のための部門別グループワーク	11	発表会のための部門別グループワーク・舞台練習	
4	発表会のための部門別グループワーク	12	芸術ホール リハーサル	
5	発表会のための部門別グループワーク	13	学内リハーサル	
6	発表会のための部門別グループワーク	14	前日リハーサル	
7	発表会のための部門別グループワーク・舞台練習	15	芸術ホールにおける卒業研究発表会	
8	発表会のための部門別グループワーク・舞台練習			
教科書・参考文献				
成績評価の方法及び基準	舞台・美術製作・音楽、運営部門における活動（50%）リハーサルを含む発表会当日の活動（40%）レポート（10%） 各部門担当教員が、活動内容やレポートを含め総合的に評価する。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
器 楽 Ⅲ	1	2	通年	相原千鶴子・上野美知子・斉藤佳子・谷藤有紀
授業のねらいと到達目標	保育士として必要なピアノ演奏技術を身につけ、自らの教職への適性を検討し、意欲を高めることを目的とする。			
授業の方法	教材を用い、個人レッスン形式で行い、音楽の基礎を修得させる。			
事前・事後学習	毎日の予習、復習を習慣づけるようにする必要がある。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・シラバス説明	16	6度・3度の重音No.77・No.78	
2	ハ長調の音階No.55・No.56	17	3連符No.79・No.80	
3	高い音の練習（その1）No.57・低い音の練習No.58	18	ヘ長調よりハ長調への転調No.81	
4	ヘ長調の音階No.59・No.60	19	3度の重音と8度の跳躍No.81	
5	8vaの練習・ト長調の音階No.62・No.63	20	弱起の曲No.83・No.84	
6	高い音の練習（その2）No.64・No.65	21	二長調の主要三和音No.85・二短調主要三和音	
7	高い音の練習（その2）No.66・No.67	22	装飾音No.87・No.88	
8	臨時記号No.68・半音階No.69	23	装飾音No.89・No.90	
9	16分音符のリズムNo.70・No.71・No.72	24	複付点音符No.91・No.92	
10	イ短調の主要三和音No.73・No.74	25	複付点音符No.93・No.94	
11	イ短調の主要三和音No.75・No.76	26	補充教材 March	
12	課題の練習①	27	課題の練習①	
13	課題の練習②	28	課題の練習②	
14	課題の練習③	29	課題の練習③	
15	課題の練習・小テスト	30	課題の練習・小テスト	
教科書・参考文献	教職課程のための大学ピアノ教本			
成績評価の方法及び基準	小テスト2回各20点・試験60点とする			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
こどもの造形と遊び	1	2	前期	坂口 摩佐子
授業のねらいと到達目標	子供は造形的な遊びを通して、発達の基礎となる感覚を統一し、認知力や技術を向上させている。保育士として子供たちの心を受け止め、造形あそびの体験を情感豊かな活動へと導けるよう、造形遊びを自ら考え創造していく力の体得を目標とする。			
授業の方法	実際に造形あそびを体験し、こどもの気持ち・心情を理解したのち、自ら造形あそびを設定し、アイデアや工夫を加えて発展させ、実践する。			
事前・事後学習	次回課題についてのアイデアの構築、材料・用具の事前準備が必要である。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・貼り絵あそび	9	ねんど遊び・テラコッタ粘土	
2	造形遊びのアイデア・発想	10	自然の造形あそび	
3	造形遊びのアイデア・試作	11	窓面装飾	
4	アイデアの実践1・ためし遊び	12	窓面装飾	
5	アイデアの実践2・検証	13	窓面装飾	
6	アイデアの実践3・発表	14	窓面装飾	
7	アイデアの実践4・発展	15	お店屋さんの造形あそび	
8	ねんど遊び・こむぎ粘土			
教科書・参考文献				
成績評価の方法及び基準	自分で考えた造形遊びの発想力 (30%) 独創性 (30%) 制作作品等の課題評価 (40%)			



科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
こどもの音楽と遊び	1	2	前期	鈴木 比都美
授業のねらいと到達目標	本講義は声楽（歌い方）の理解を深め、教職への適正・意欲を高める事を目的とする。			
授業の方法	教科書を用いて・実技形式で行う。			
事前・事後学習	教科書について、予習・復習が必要。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	発声、指遊びの歌（のぼるよコアラ）世界の遊び歌より（No.29）歌体操（まりと殿様）	
2	発声（ボールで）、指遊び歌（いちにのさん）世界の遊び歌より（No.1. 3. 5）	10	発声、指遊びの歌（のぼるよコアラ）世界の遊び歌より（No.31. 34）歌体操（まりと殿様）	
3	発声（ボールで）、指遊び歌（いちにのさん）世界の遊び歌より（No.6. 7. 8）	11	発声、指遊びの歌（のぼるよコアラ）世界の遊び歌より（No.35. 37）歌体操（カチューシャ）	
4	発声（ボールで）、指遊び歌（ピクニック）世界の遊び歌より（No.9. 10. 12）	12	発声、指遊びのうた（鬼のパンツ）世界の遊び歌より（No.38. 39）歌体操（カチューシャ）	
5	発声（ボールで）、指遊び歌（ピクニック）世界の遊び歌より（No.14. 15. 17）	13	発声、指遊びのうた（鬼のパンツ）世界の遊び歌より（No.39. 40）歌体操（月の砂漠）	
6	発声（腹筋・ブレス注意して）、指遊び歌（ピクニック）世界の遊び歌より（No.18. 19. 20）	14	発声、指遊びのうた（鬼のパンツ）世界の遊び歌より（No.39. 40）歌体操（月の砂漠）	
7	発声（腹筋・ブレスに注意して）、指遊び歌（ダイヘンシン）世界の遊び歌より（No.21. 22. 24）	15	発声、指遊びのうた（鬼のパンツ）歌体操（まりと殿様・カチューシャ・月の砂漠）	
8	発声（腹筋・ブレスに注意して）、指遊び歌（ダイヘンシン）世界の遊び歌より（No.25. 26. 28）			
教科書・参考文献				
成績評価の方法及び基準	定期試験（100%） 60%以上で合格			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
こどもの健康と遊び	1	2	後期	中川 希望
授業のねらいと到達目標	健康教育の重要性や必要性の理解を深め、乳幼児が自発的に活動することの出来る環境設定を構成する力を身につける。そして、動きづくりへの安全な援助法や指導法を学ぶ。			
授業の方法	グループの発表形式。発表および毎講義終了後のレポート提出が必須条件。			
事前・事後学習	発表のための予習及びグループ内の打ち合わせが必要。また発表後、各グループでの振り返りが必要である。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・グループ作り	9	発表⑦	
2	発表資料の作成	10	発表⑧	
3	発表①	11	発表⑨	
4	発表②	12	発表⑩	
5	発表③	13	発表⑪	
6	発表④	14	発表⑫	
7	発表⑤	15	発表⑬・講義総括	
8	発表⑥			
教科書・参考文献	遊びの指導（同文書院）、0～5歳児のたのしい運動あそび（いかだ社）			
成績評価の方法及び基準	発表（40%） レポート（60%） 講義終了後に毎時レポート提出を行う。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
社会福祉法制	2	2	前期	小山 貴博
授業のねらいと到達目標	本講義では、福祉専門職が知識として持っておくべき、人の生活の状況や社会の状況を理解する。その上で、社会福祉に関する各種の法制度について具体的に理解する。			
授業の方法	教科書の内容に沿ったスライド資料およびワークシートを用いて、講義形式で行う。筆記試験の受験が単位認定の必須条件となる。			
事前・事後学習	事前に教科書を熟読し、予習した上で講義を受講すること。また、各回の受講後には、講義内容を復習し、必要に応じて、各種統計資料や関連法の原文等を参照すること。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	障害者自立支援制度の基本としくみ	
2	生活と社会福祉①	10	障害者自立支援制度にかかわる組織	
3	生活と社会福祉②	11	権利擁護に関わる諸制度	
4	社会保障制度の基本と歴史	12	保健医療にかかわる諸施策・諸制度	
5	社会保障制度のしくみ	13	生活を支える諸制度	
6	介護保険制度の基本としくみ①	14	講義内容の振り返り①	
7	介護保険制度の基本としくみ②	15	講義内容の振り返り②	
8	介護保険制度におけるそれぞれの役割			
教科書・参考文献	適宜、資料を配布する			
成績評価の方法及び基準	① ワークシートへの記入状況(40%)と②筆記試験(60%)を総合して評価する。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
ボランティア活動論	2	2	後期	渡谷 能孝
授業のねらいと到達目標	ボランティアという言葉は誰もが知っており、ボランティアを経験した方も少なくないと思います。では、ボランティアとはいったい何のことでしょうか？本講義では多角的な視点から幅広くボランティアを捉え、ボランティアに対する考え方に新たな価値観を発見していくことをねらいとします。			
授業の方法	スライド等の講義形式と演習			
事前・事後学習	ボランティア体験			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・ボランティアの5原則	9	聴覚障害とボランティア	
2	ボランティアの意味・始まり	10	視覚障害とボランティアⅠ	
3	ボランティアと社会Ⅰ	11	視覚障害とボランティアⅡ	
4	ボランティアと社会Ⅱ	12	車椅子とボランティアⅠ	
5	ボランティアの活動形態	13	車椅子とボランティアⅡ	
6	ボランティアの課題	14	ボランティア活動のこれから	
7	ボランティアとNPO	15	授業総括	
8	ボランティアの有償性			
教科書・参考文献	随時紹介する			
成績評価の方法及び基準	レポート(60%) 授業内提出課題(40%)			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
福祉住環境コーディネーターⅠ	1	2	前期	渡谷 能孝
授業のねらいと到達目標	本講義では、わが国が直面している少子高齢社会において、福祉社会の観点からの住宅、住環境に対する理解を深め、安心して生活することのできる暮らしやすい住環境を学習し、福祉住環境コーディネーター3級取得に向けた学習をねらいとします。			
授業の方法	教科書や板書等を用いて、講義形式で授業を行います。			
事前・事後学習	教科書を読んで予習が必要です。 授業内で配布された練習問題を解くこと。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・福祉住環境コーディネーターとは	9	生活福祉用具	
2	現在の高齢社会と福祉	10	住まい整備のための基本技術	
3	福祉住環境の重要性・必要性	11	福祉住環境整備（屋内外の移動）	
4	介護保険制度についてⅠ	12	福祉住環境整備（排泄・整容・入浴）	
5	介護保険制度についてⅡ	13	福祉住環境整備（清掃・調理・就寝）	
6	高齢者の健康と自立Ⅰ	14	安心できる住生活	
7	高齢者の健康と自立Ⅱ	15	安心できるまちづくり	
8	バリアフリーとユニバーサルデザイン			
教科書・参考文献	教科書 福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 参考文献 福祉住環境コーディネーター3級 問題集			
成績評価の方法及び基準	筆記試験			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
教育カウンセリング	1	2	後期	阿部 千春
授業のねらいと到達目標	さまざまな対人援助場面でのコミュニケーションのあり方や援助のしかたについて教科書や体験を通して学び、教育カウンセリングに関する基本的な知識と技法を習得することを目的とします。			
授業の方法	教科書と講義資料を用いて講義形式で行い、グループアプローチについては演習を行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。			
事前・事後学習	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。授業後は、講義資料と教科書を読んで復習し、学習した内容の要点をノートにまとめます。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	不登校の理解と対応	
2	教育カウンセリング概論	10	いじめの理解と対応	
3	発達の理論	11	問題行動の理解と対応	
4	構成的グループエンカウンターの実理	12	学級経営	
5	構成的グループエンカウンターの実践	13	保護者対応	
6	アサーション・トレーニングの考え方と実際①	14	教師のメンタルヘルス	
7	アサーション・トレーニングの考え方と実際②	15	授業総括	
8	キャリアガイダンス			
教科書・参考文献	「教育カウンセラー標準テキスト 初級編」NPO日本教育カウンセラー協会編、図書文化			
成績評価の方法及び基準	授業内試験（80%）、感想カード（20%）によって総合的に評価します。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
セラピー概論	2	2	前期	阿部 千春
授業のねらいと到達目標	カウンセリング心理学におけるさまざまな援助方法の理論と実際を学び、それぞれの理論・技法を実際の保育・幼児教育の現場でどのように役立てられるかについて検討することを目的とします。			
授業の方法	教科書と講義資料を用い、講義を行った後で、演習を行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。			
事前・事後学習	次の授業で取り上げるテーマについて教科書を読んで予習してください。教科書の内容が教育カウンセラー補の試験範囲となりますので、授業後は十分に復習してください。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	ブリーフ・セラピー	
2	精神分析理論	10	家族療法	
3	自己理論	11	表現療法	
4	ゲシュタルト療法	12	箱庭療法	
5	論理療法	13	内観療法	
6	交流分析	14	自律訓練法	
7	行動理論	15	授業総括	
8	認知行動療法			
教科書・参考文献	教科書：「教育カウンセラー標準テキスト初級編」図書文化、参考文献：「心理・精神療法ワークブック」誠信書房			
成績評価の方法及び基準	授業内試験（80%）、感想カード（20%）によって総合的に評価します。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
保育心理演習	1	2	前期	阿部 千春
授業のねらいと到達目標	保育・幼児教育の現場で出会う心理的な問題を取り上げ、それらの理解のしかたと対応方法について検討します。具体的な事例を通して、保育実践に生かせる専門的知識と技術を習得することを目的とします。			
授業の方法	講義資料を用い、講義を行った後で、演習を行います。授業内で行う試験を受験することが単位認定の必須条件となります。			
事前・事後学習	授業後は、講義資料や関連する書籍を読むなどして、復習してください。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション	9	事例検討（生活習慣について）	
2	乳幼児期における心理的特性とその対応	10	言葉の遅れについて	
3	児童期における心理的特性とその対応	11	事例検討（言葉の遅れについて）	
4	子どもの心の問題と保育・教育相談①	12	ソーシャルスキルについて	
5	子どもの心の問題と保育・教育相談②	13	事例検討（ソーシャルスキルについて）	
6	アセスメントの基礎	14	知能検査法	
7	事例検討の方法	15	授業総括	
8	生活習慣について			
教科書・参考文献	参考文献：「保育士のための気になる行動から読み解く子ども支援ガイド」学苑社			
成績評価の方法及び基準	授業内試験（80%）、感想カード（20%）によって総合的に評価します。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
幼児総合研究	2	1・2	前・後	福島 憲成
授業のねらいと到達目標	<p>子どもたちの「いのち」(智・心・体)を大きく伸ばせる教育者としての総合力を身につけます。            見えないものが見えるように、知識を高めます。            見えているものが本当に見えるように心を育てます。            より高くジャンプできるように体をきたえます。            何よりも、保育者・教育者自らがどう輝くかを課題とします。</p>			
授業の方法	<p>講義で学んだことを必ず実践・発表し、相互に評価し合って授業を展開していきます。            2年時後期は卒業研究発表会として、子ども学科2年間の学びの総まとめとして、劇の制作・上演を課題として行います。</p>			
事前・事後学習	講義で学ぶ理念・テーマ・課題について、実践発表のための制作・練習が重要です			
履修条件				
授 業 計 画				
1	オリエンテーション・幼児総合研究の目的	16	卒業研究発表会について・テーマについて	
2	輪になって遊ぼう	17	リーダー選出・制作部門分け 取り組み開始	
3	仲間作り 手遊び・ゲームの実践	18	制作・練習	
4	仲間作り 手遊び・ゲームの実践 //	19	制作・練習	
5	ことばを楽しむ 絵本の読み聞かせ	20	制作・練習	
6	紙芝居	21	制作・練習	
7	語り童話	22	制作・練習	
8	絵描き歌	23	制作・練習	
9	光と影で遊ぶ 手影絵・指影絵	24	制作・練習	
10	人形で遊ぶ 誰でも出来る腹話術	25	制作・練習	
11	劇遊び パネルシアターの制作	26	制作・練習	
12	制作実践	27	制作・練習	
13	制作実践	28	学内リハーサル	
14	作品発表	29	ホールリハーサル	
15	合評	30	卒業研究発表会	
教科書・参考文献	担当者の自主編集			
成績評価の方法及び基準	1年前期は、レポート・提出物・及び課題ごとの発表の評価(細かいポイントを事前に示した到達目標表)等により総合的に評価し、後期は創作劇の取り組みでの評価で行います。			

科 目 名	単 位	年次	開講期	担当教員氏名
ウィンタースポーツ	1	2	集中	渡谷 能孝 ・ 中村 哲二
授業のねらいと到達目標	雪国の文化であるスノースポーツは人々に潤いと意欲、文化向上に果たす役割は大きいものである。その中心的なスキー・スノーボードを体験し意義の理解、技術向上を図り実践的態度を身につける目的とする。			
授業の方法	後期講義終了後、二泊三日の集中講義を行います。実施地は函館七飯スキー場。			
事前・事後学習	特に無いが、用具の準備・整備・管理及び健康管理。			
履修条件				
授 業 計 画				
1	用具・服装・安全の知識と点検	9	フォールラインへの横滑（サイドスリップ）	
2	ハンディングの装着	10	木の葉落とし	
3	基本姿勢	11	斜滑降からの山回り（バックサイド）	
4	安全な転び方	12	斜滑降からの山回り（フロントサイド）	
5	方向転換	13	斜面横方向から縦方向へ（迎え角の変更）	
6	起き方	14	ノーズドロップと停止 （バックサイドからフロントサイドから）	
7	歩行、登行	15	トラベース→スネークトラベース→ ノーズドロップ停止	
8	片足スケータリング			
教科書・参考文献	SAJ スノーボード教程（財団法人全日本スキー連盟）日本スキー教程（財団法人全日本スキー連盟）			
成績評価の方法及び基準	授業内での評価 100% 60%以上で合格とする。			